

観光を取り巻く現状（資料集）

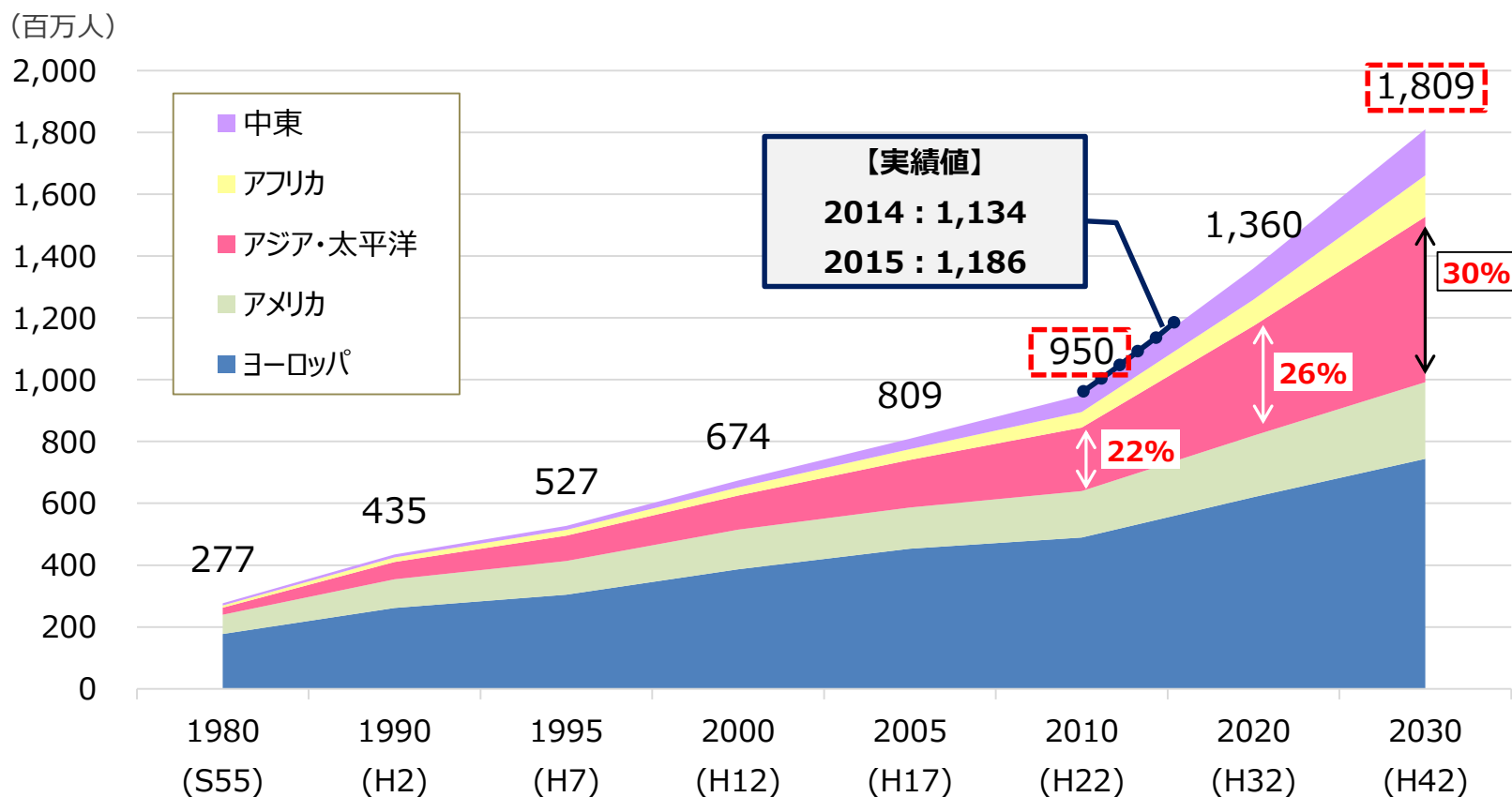
平成29年5月31日

東 京 都

| | | |
|--|---------------------------------|----|
| 世界の旅行者数の推移（今後の予測） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 1 |
| 訪日外国人旅行者数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 2 |
| 国・地域別訪日外国人旅行者数の内訳 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 3 |
| 外国人旅行者受入数の国際比較（2015年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 4 |
| 空路又は水路による外国人旅行者受入数の国際比較（2014年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 5 |
| 日本人出国者数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 6 |
| 訪都旅行者数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 7 |
| 訪都外国人旅行者が多く訪れる都内の地域（2015年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 8 |
| 国・地域別訪日外国人旅行者のリピーター割合（2016年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 9 |
| 国際旅行収支の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 10 |
| 訪日・訪都外国人旅行者の消費額推移及び国内・訪都日本人旅行者の消費額推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 11 |
| 国・地域別訪日外国人旅行者消費額の割合（2016年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 12 |
| 国・地域別の費目別一人当たり旅行消費額上位10位（2016年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 13 |
| 訪日・訪都外国人旅行者一人当たりの旅行消費額の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 14 |
| 都内延べ宿泊者数の推移及び都内宿泊施設の客室稼働率推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 15 |
| 都内宿泊施設数・客室数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 16 |
| ビザ緩和の変遷 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 17 |
| 空海港別の入国外国人数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 18 |
| 世界のクルーズ人口の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 19 |
| クルーズ船による外国人入国者数 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 20 |
| 国内港湾へのクルーズ船寄港回数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 21 |
| 国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 22 |
| 国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社及び日本船社） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 23 |
| 世界各都市における国際会議の開催件数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 24 |
| 訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 25 |
| 外国人旅行者が旅行中に困ったこと（2016年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 26 |
| 西多摩地域の入込観光客数の推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 27 |
| 伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移 | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 28 |
| Condé Nast Traveler（コンデ・ナスト・トラベラー） Best Cities in the World（2016年） | ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 29 |

世界の旅行者数の推移(今後の予測)

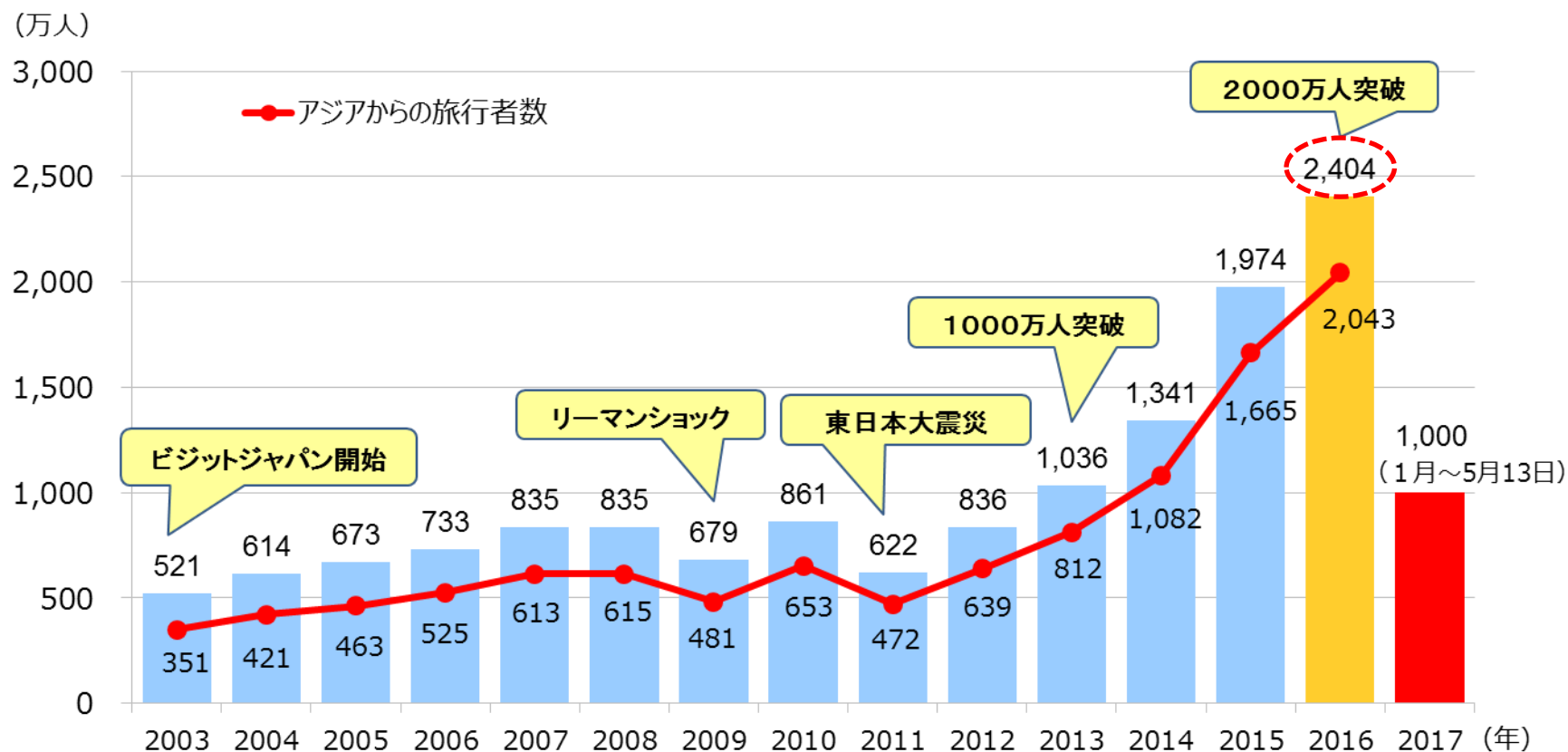
- 全世界の旅行者数は増加傾向にあり、2010年には約9.5億人に達している。
- **2030年には約18.1億人と、2010年の2倍程度に増加**することが予測されている。



出典:「Tourism Highlights 2016 Edition」(世界観光機関)

訪日外国人旅行者数の推移

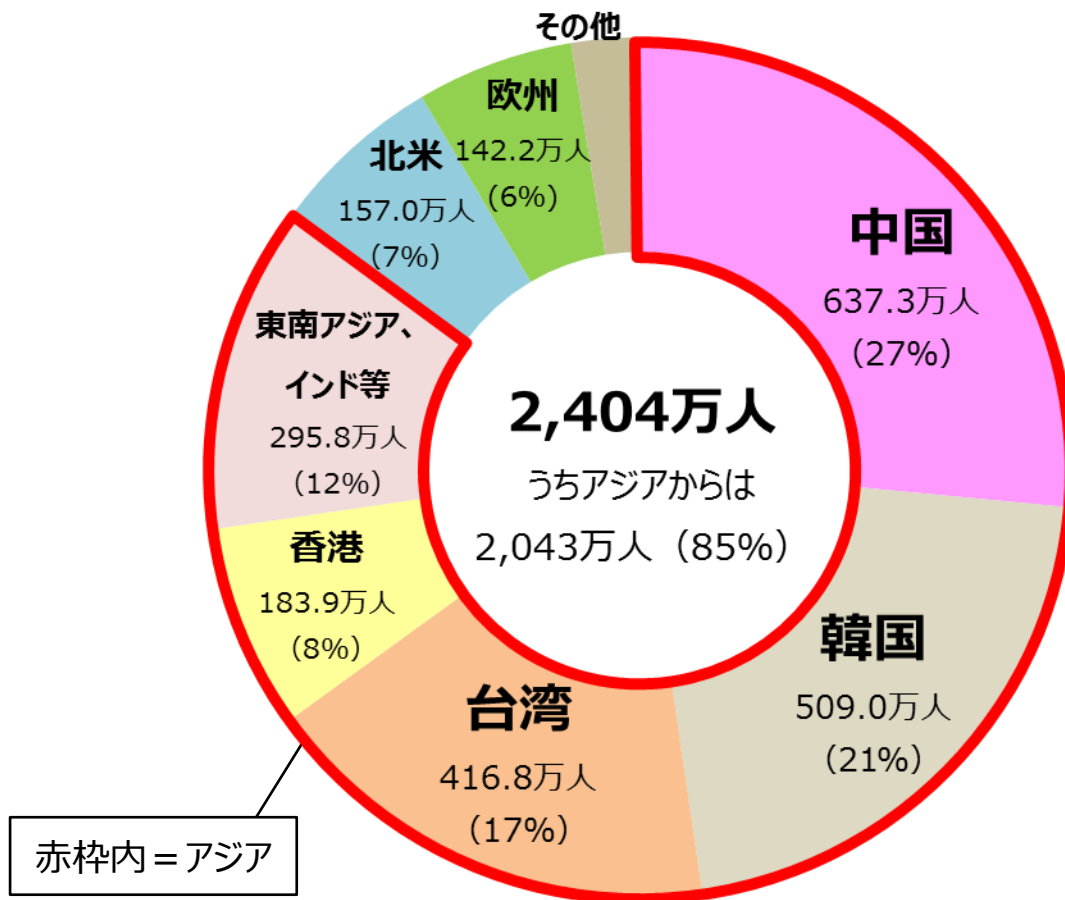
- 訪日外国人旅行者数は、この10年間で約3倍に増加
- 2016年の旅行者数は過去最高の約2,404万人を記録



注：2017年は推計値。また、アジアからの旅行者数は未公表のため掲載していない。

国・地域別訪日外国人旅行者数の内訳(2016年)

➤ 2016年の訪日旅行者のうち、**アジアからの旅行者が全体の約85%**

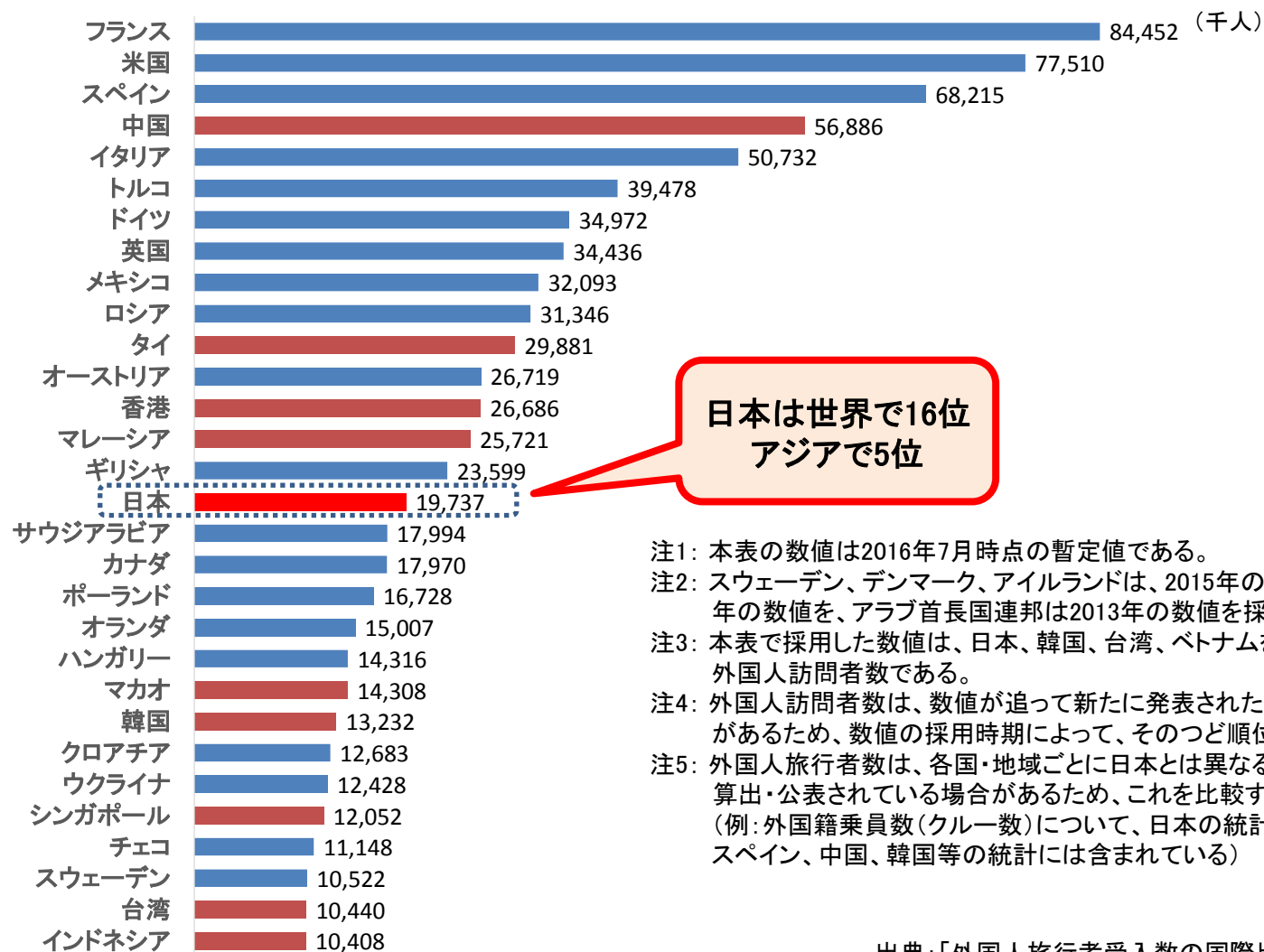


注:平成29年3月15日発表数値を掲載

出典:日本政府観光局(JNTO)

外国人旅行者受入数の国際比較(2015年)

➤ 2015年の日本における外国人旅行者受入数は1,974万人で、**世界で16位**（アジアで5位）



日本は世界で16位
アジアで5位

注1: 本表の数値は2016年7月時点の暫定値である。

注2: スウェーデン、デンマーク、アイルランドは、2015年の数値が不明であるため、2014年の数値を、アラブ首長国連邦は2013年の数値を採用した。

注3: 本表で採用した数値は、日本、韓国、台湾、ベトナムを除き、原則的に1泊以上した外国人訪問者数である。

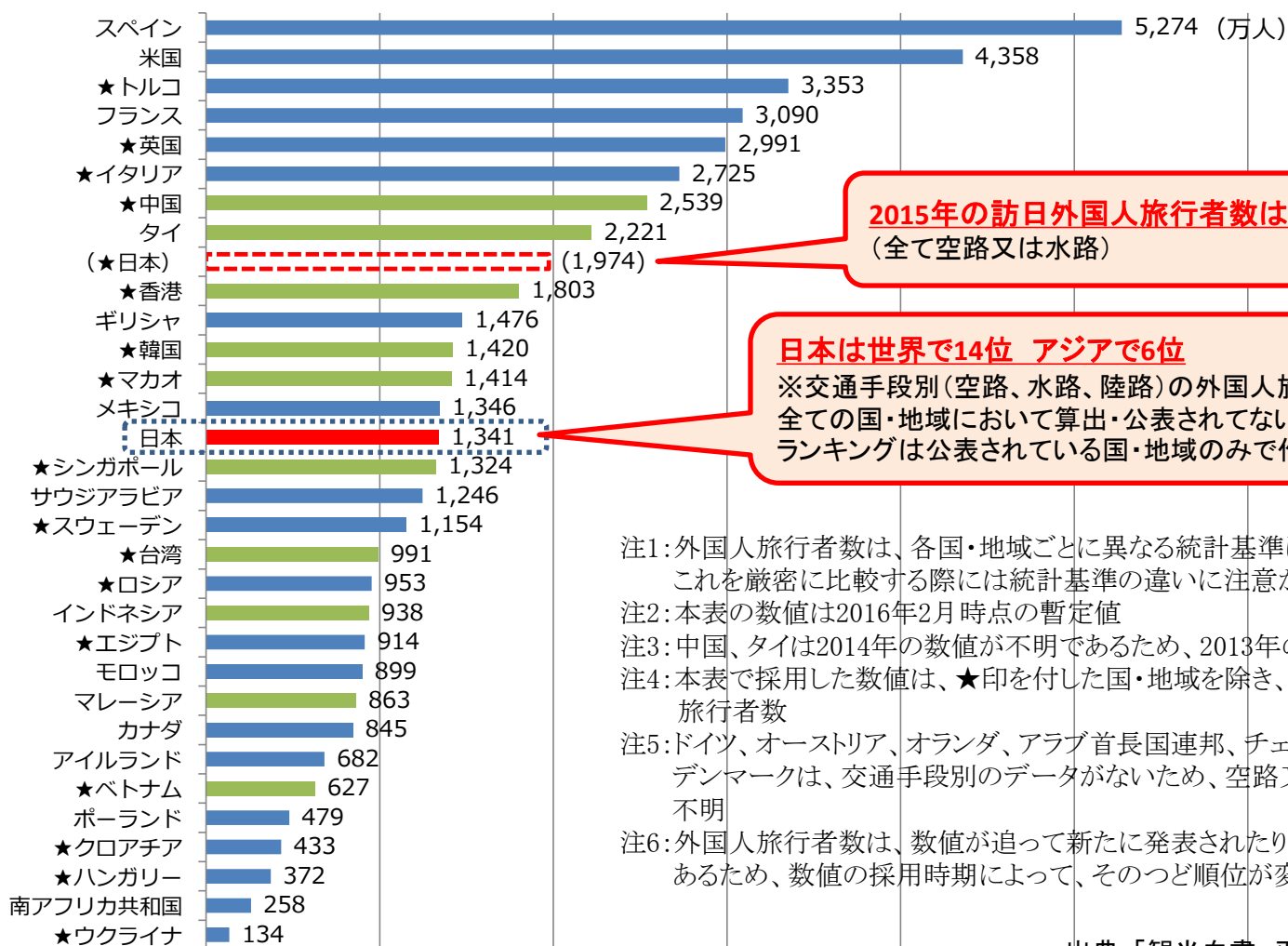
注4: 外国人訪問者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る。

注5: 外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合があるため、これを比較する際には注意を要する。

(例: 外国籍乗員数(クルー数)について、日本の統計には含まれないが、フランス、スペイン、中国、韓国等の統計には含まれている)

空路又は水路による外国人旅行者受入数の国際比較(2014年)

- 2014年の日本における空路・水路の受入数は1,341万人で、**世界で14位**（アジアで6位）
- 世界の観光先進国であるイギリスやイタリアも空路・水路による受入数は2000万人台



2015年の訪日外国人旅行者数は1,974万人
(全て空路又は水路)

日本は世界で14位 アジアで6位
※交通手段別(空路、水路、陸路)の外国人旅行者数は、全ての国・地域において算出・公表されていないため、本ランキングは公表されている国・地域のみで作成

注1: 外国人旅行者数は、各国・地域ごとに異なる統計基準により算出・公表されているため、これを厳密に比較する際には統計基準の違いに注意が必要

注2: 本表の数値は2016年2月時点の暫定値

注3: 中国、タイは2014年の数値が不明であるため、2013年の数値を採用した。

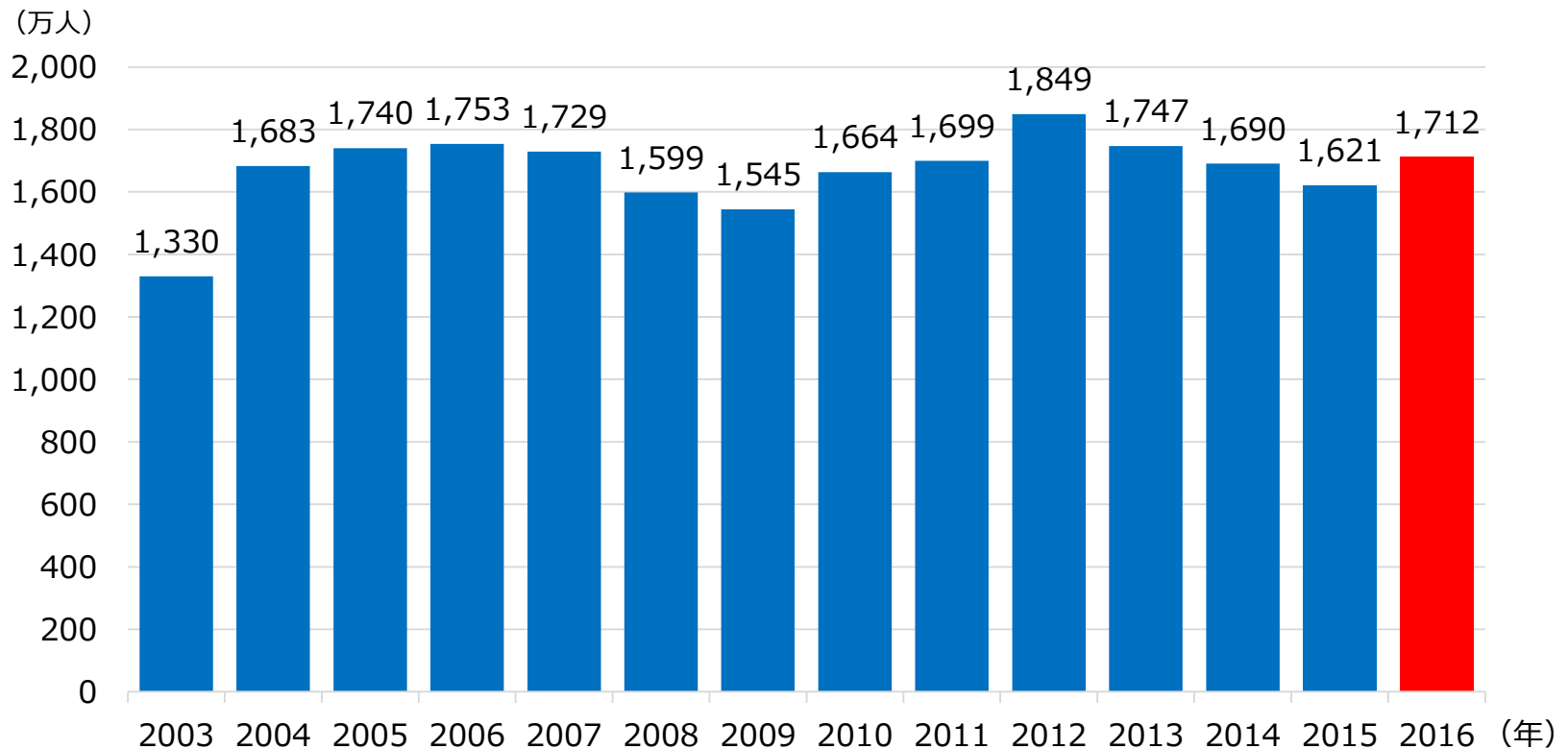
注4: 本表で採用した数値は、★印を付した国・地域を除き、原則的に1泊以上した外国人旅行者数

注5: ドイツ、オーストリア、オランダ、アラブ首長国連邦、チェコ、スイス、ポルトガル、ベルギー、デンマークは、交通手段別のデータがないため、空路又は水路による外国人旅行者数は不明

注6: 外国人旅行者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る

日本人出国者数の推移

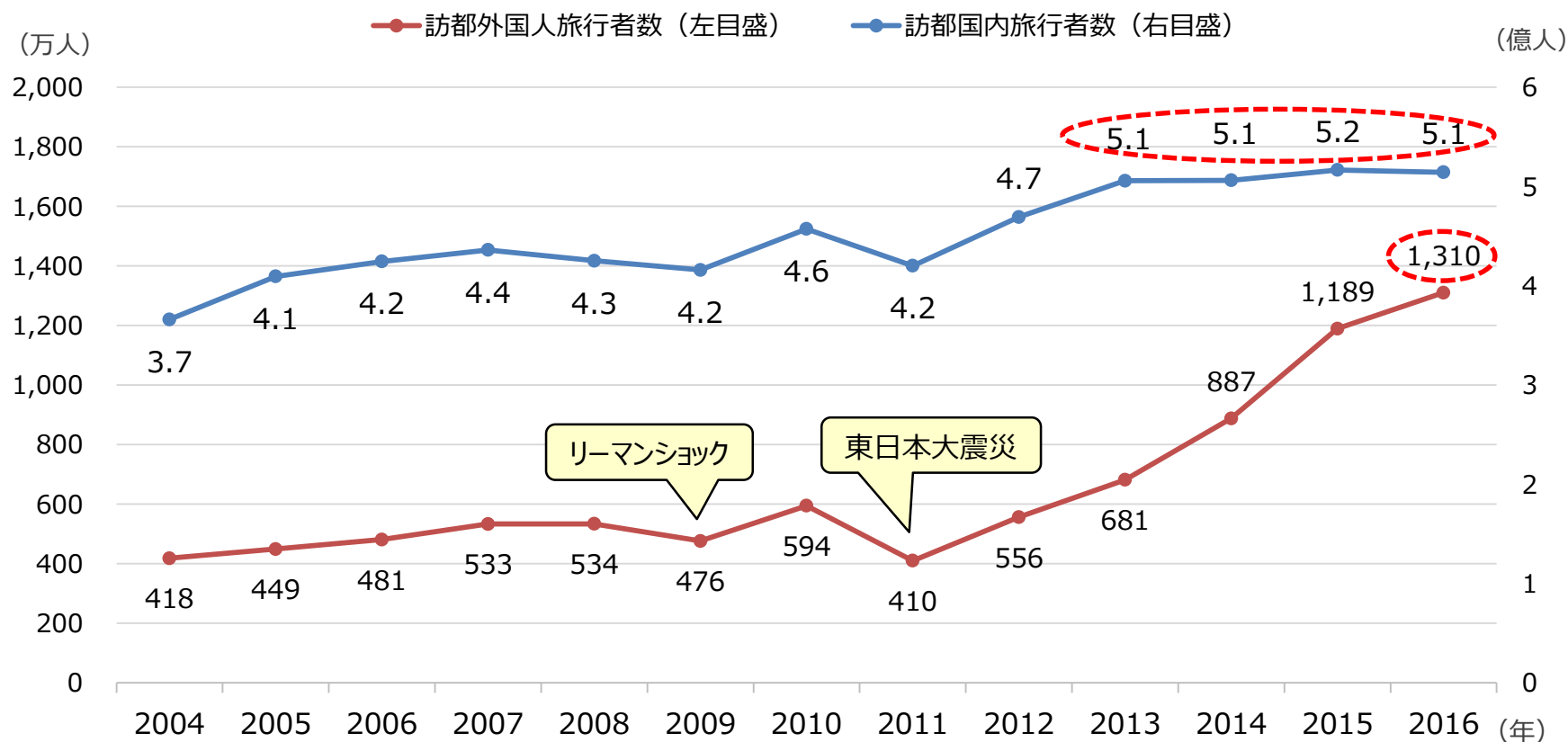
- 2016年の日本人出国者数は**1,712万人**となり、2015年よりは増加したものの、訪日外客数は下回っている。



出典: 日本政府観光局(JNTO)

訪都旅行者数の推移

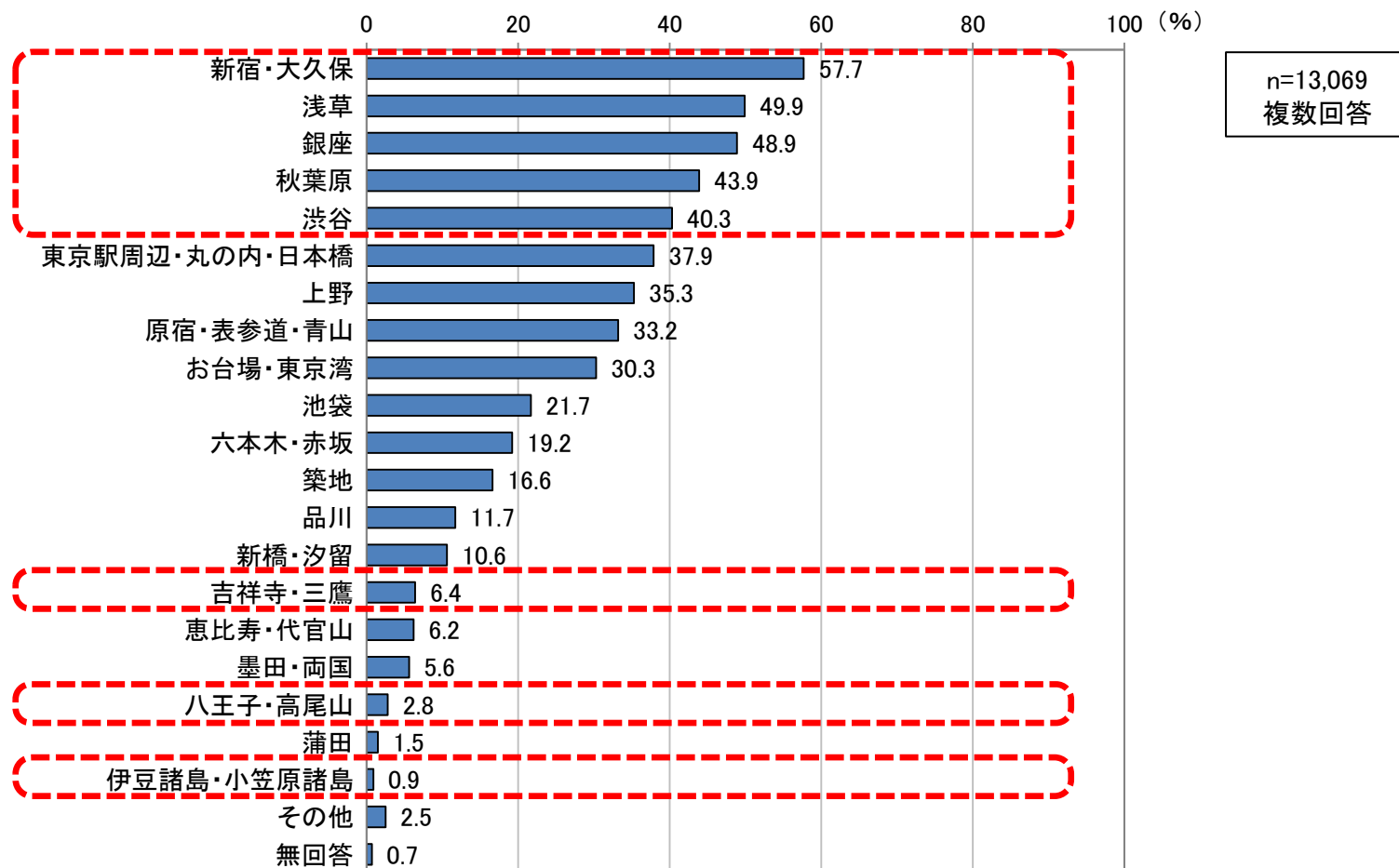
- 訪都外国人旅行者数は、この**10年間で約2.7倍に増加**
- 国内旅行者数は、近年**5億人超**で推移



出典:「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

訪都外国人旅行者が多く訪れる都内の地域(2015年)

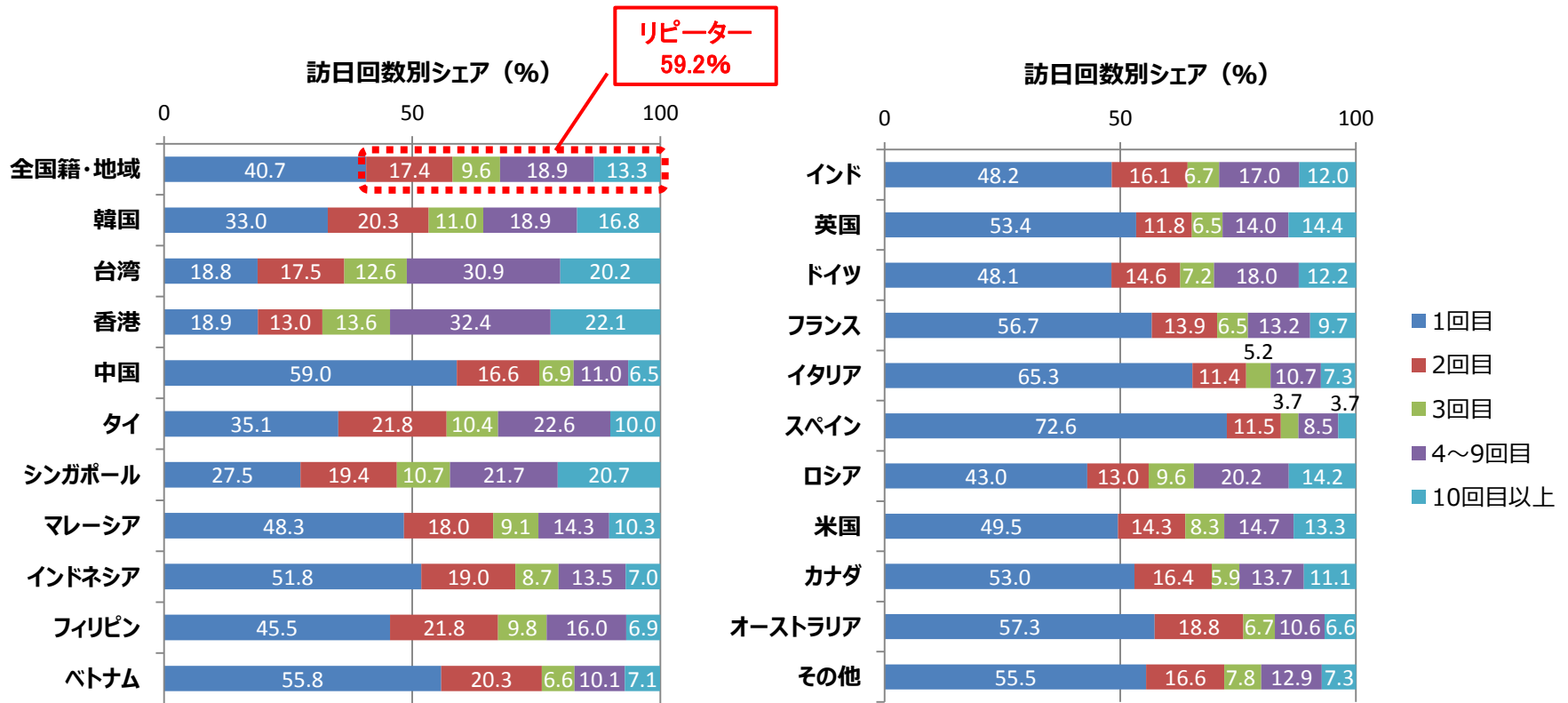
- 訪都外国人旅行者が多く訪れた地域は、①新宿・大久保、②浅草、③銀座、④秋葉原、⑤渋谷の順で、都心部が中心となっている。
- 都心部と比べ、**多摩・島しょ部への送客は進んでいない。**



出典:「平成27年度国別外国人行動特性調査報告書」(東京都)

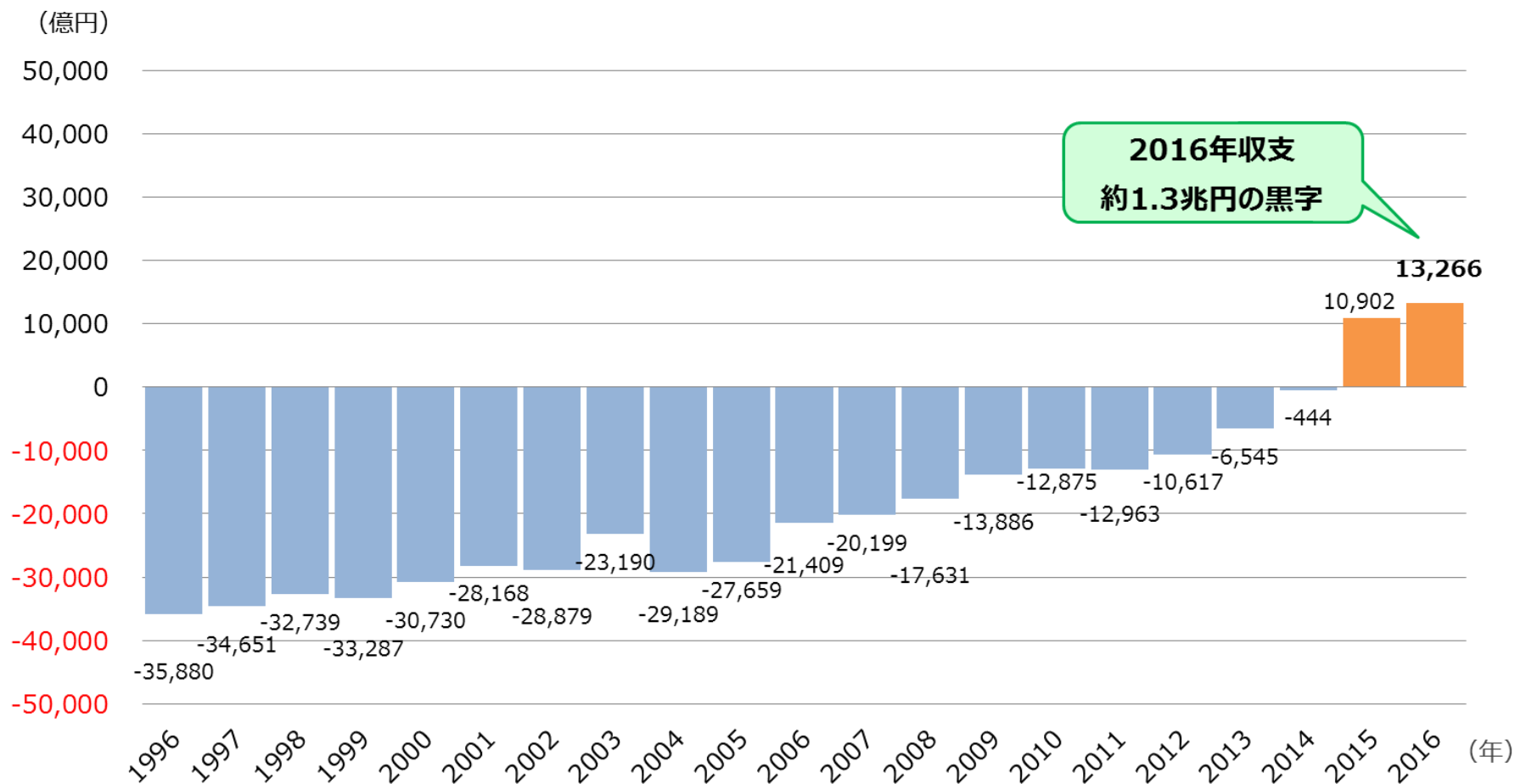
国・地域別訪日外国人旅行者のリピーター割合（2016年）

- 訪日外国人旅行者の**約6割はリピーター**が占める。
- リピーター率の高い国・地域は台湾と香港であり、**中国は初めて訪日する旅行者が59.0%と、新規訪日客が多い。**



国際旅行収支の推移

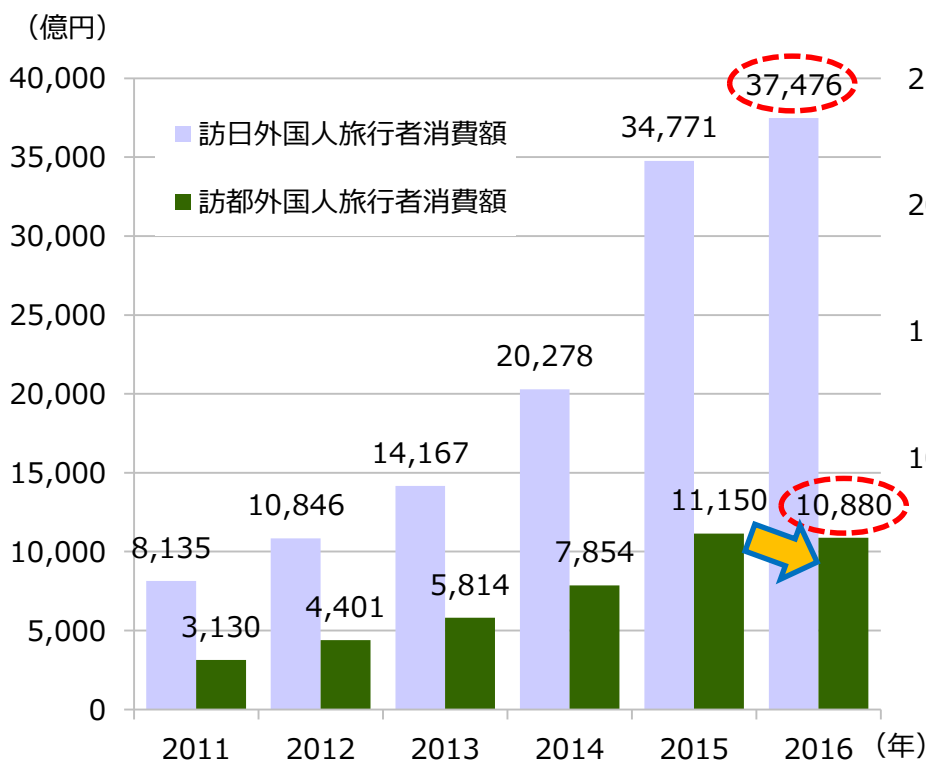
- 国際旅行収支は恒常的に赤字が続いていたが、2015年、1962年以来53年ぶりに**黒字化を達成**
- 2016年はさらに収支が改善し、**約1.3兆円の黒字**を記録



訪日・訪都外国人旅行者の消費額推移及び国内・訪都日本人旅行者の消費額推移

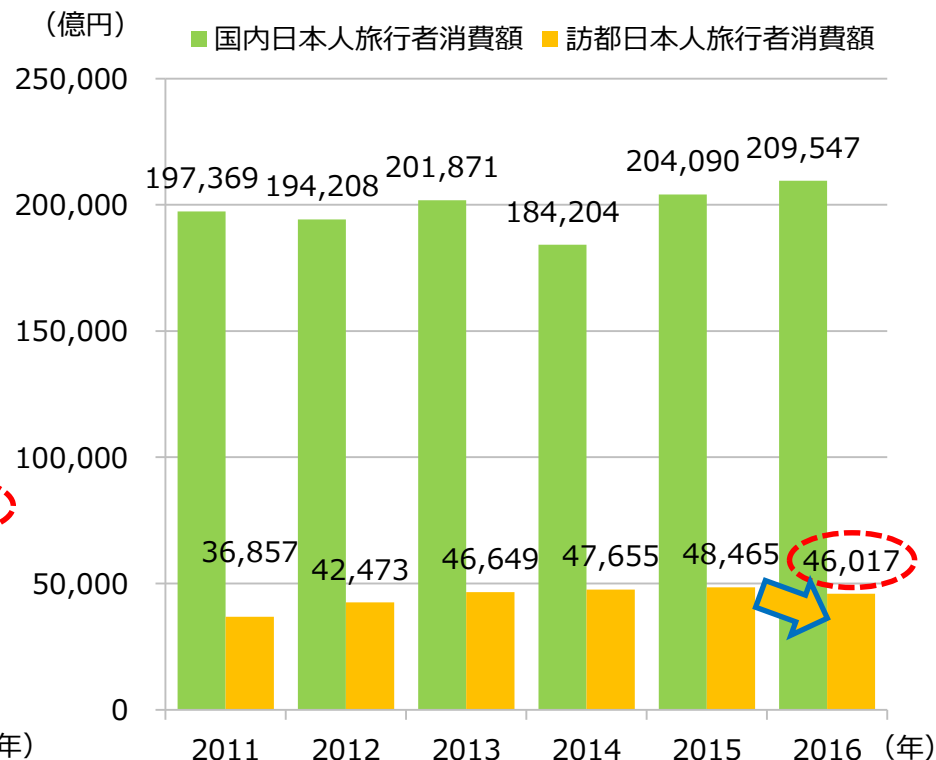
- 2016年の訪日外国人消費額は、**過去最高の約3.7兆円**を記録
- 訪都外国人消費額は、2016年に前年比**2.4%減**の約1兆9百億円
- 訪都日本人旅行者の消費額は、2016年に前年比**5.1%減**の約4兆6千億円

【外国人旅行者の消費額推移】



出典：「訪日外国人消費動向調査」(観光庁)、
「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

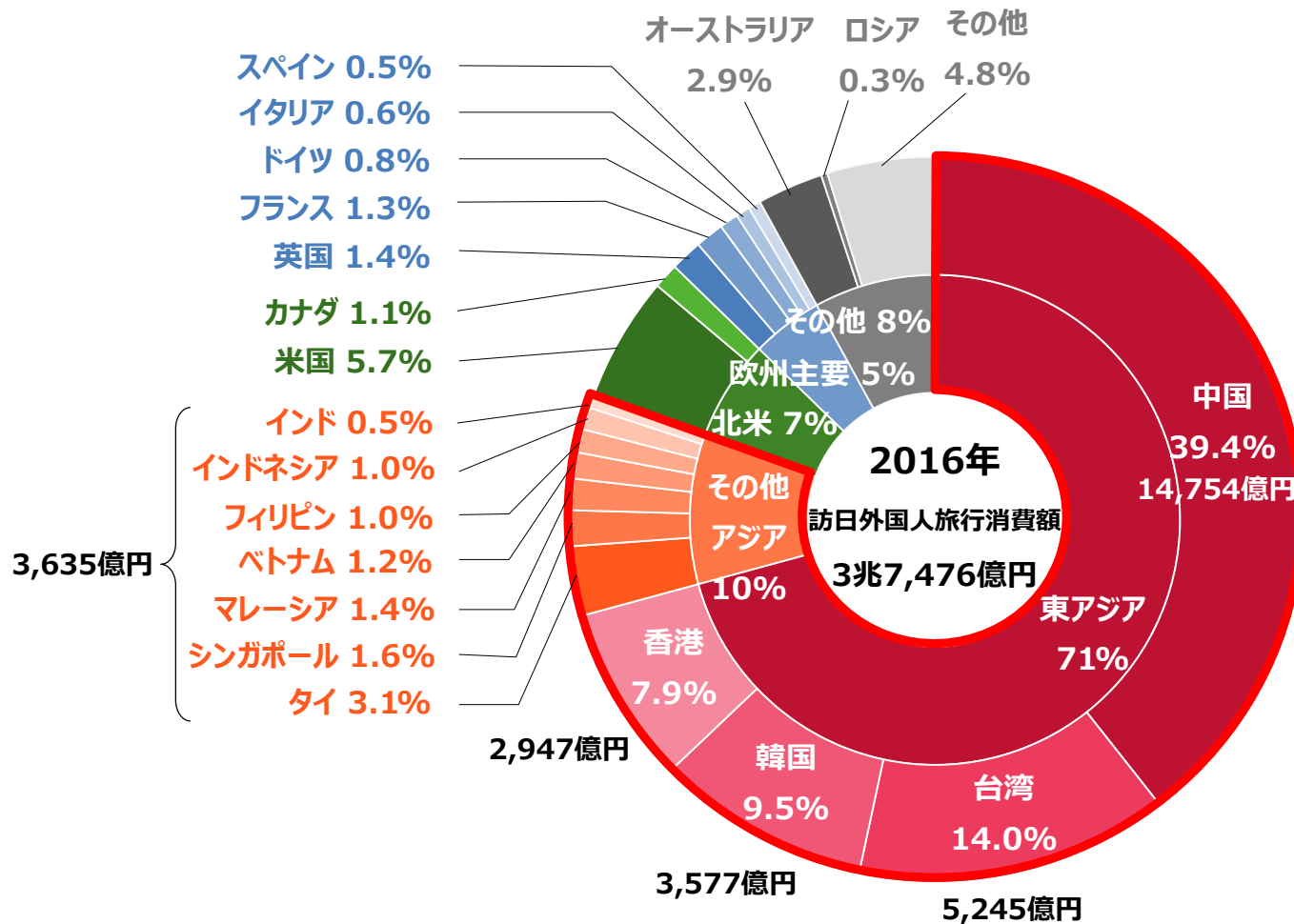
【日本人旅行者の消費額推移】



出典：「旅行・観光消費動向調査」(観光庁)、
「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

国・地域別訪日外国人旅行者消費額の割合(2016年)

- アジアからの旅行者の消費額は、約3兆160億円で**全体の8割**を占めた。
- 国・地域別では、**中国が1兆4,754億円で総額の4割**を占めた。



国・地域別の費目別一人当たり旅行消費額上位10位（2016年）

- 中国などアジアからの旅行者は**買物代**の消費が多く、欧米豪は**宿泊料金**や**交通費**の消費が多い。

単位：（円／人）

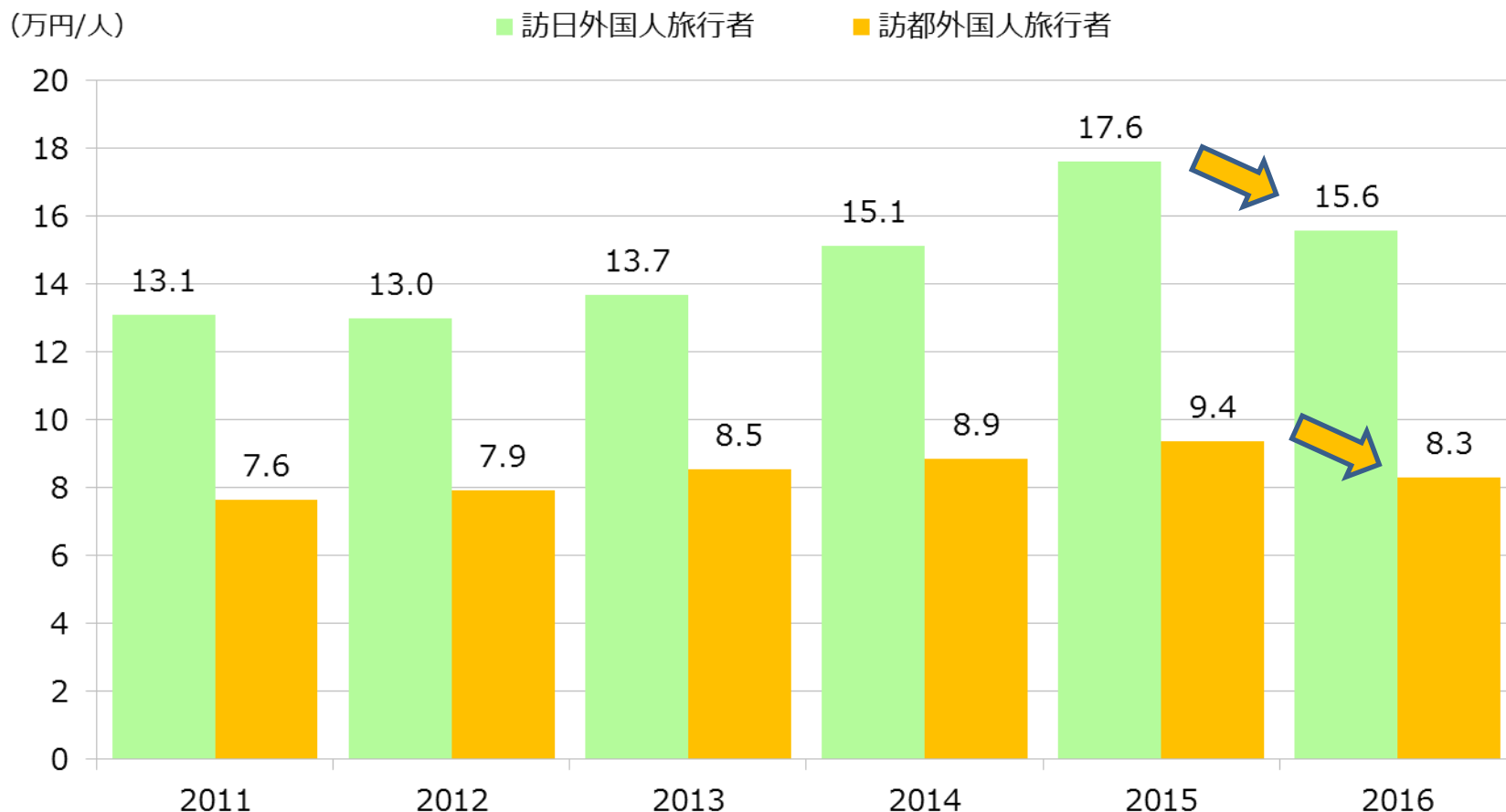
| | 旅行支出総額 | 宿泊料金 | 飲食費 | 交通費 | 娯楽サービス費 | 買物代 |
|----|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1 | オーストラリア 246,866 | オーストラリア 99,802 | ベトナム 54,182 | スペイン 44,168 | オーストラリア 17,957 | 中国 122,895 |
| 2 | 中国 231,504 | スペイン 92,211 | オーストラリア 51,202 | オーストラリア 40,169 | イタリア 9,315 | ロシア 64,889 |
| 3 | スペイン 224,072 | 英国 80,131 | スペイン 49,103 | イタリア 38,900 | フランス 7,830 | 香港 62,389 |
| 4 | イタリア 198,000 | ドイツ 78,849 | イタリア 45,299 | フランス 34,590 | ロシア 7,258 | ベトナム 58,883 |
| 5 | ロシア 190,874 | イタリア 78,597 | 英国 41,220 | 英国 30,011 | スペイン 6,482 | 台湾 47,122 |
| 6 | フランス 189,006 | フランス 75,462 | 米国 41,137 | ドイツ 29,715 | 英国 6,408 | タイ 45,414 |
| 7 | ベトナム 186,138 | 米国 70,707 | フランス 40,799 | カナダ 28,509 | 米国 5,427 | シンガポール 40,428 |
| 8 | 英国 181,795 | ロシア 61,845 | 中国 38,943 | 米国 27,856 | カナダ 5,184 | マレーシア 40,023 |
| 9 | 米国 171,418 | インド 61,354 | ドイツ 36,899 | インドネシア 27,171 | ドイツ 5,068 | オーストラリア 37,587 |
| 10 | ドイツ 171,009 | シンガポール 58,462 | カナダ 36,319 | シンガポール 24,891 | インドネシア 5,051 | インドネシア 34,665 |

東アジア その他アジア 欧米豪

出典：「訪日外国人の消費動向 平成28年 年次報告書」(観光庁)

訪日・訪都外国人旅行者一人当たりの旅行消費額の推移

- **2015年までは**訪日・訪都ともに外国人一人当たりの旅行消費額は**増加傾向**
- 2016年は訪日外国人、訪都外国人ともに一人当たりの旅行消費額が**前年より減少**

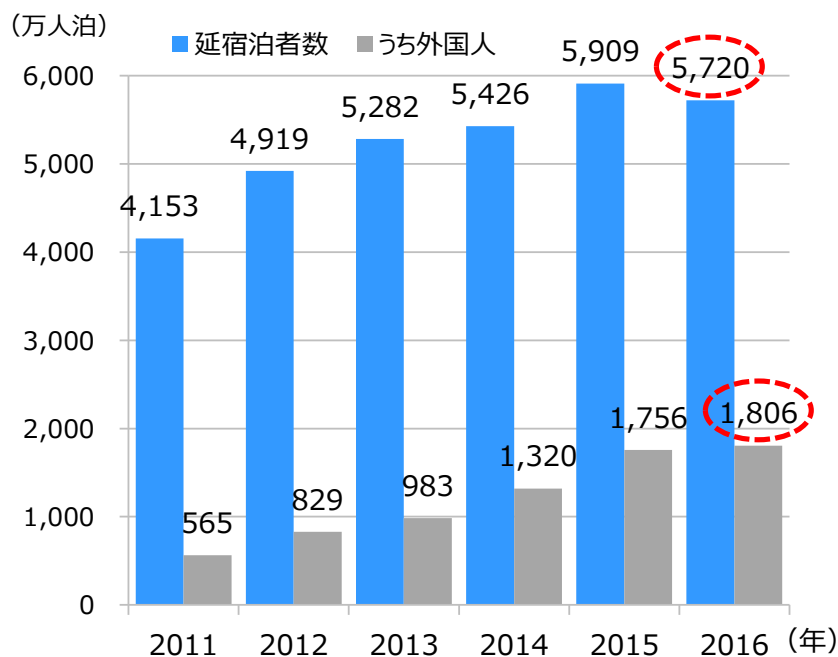


出典：日本政府観光局(JNTO)、「訪日外国人消費動向調査」(観光庁)、「東京都観光客数等実態調査」(東京都)をもとに作成

都内延べ宿泊者数の推移及び都内宿泊施設の客室稼働率推移

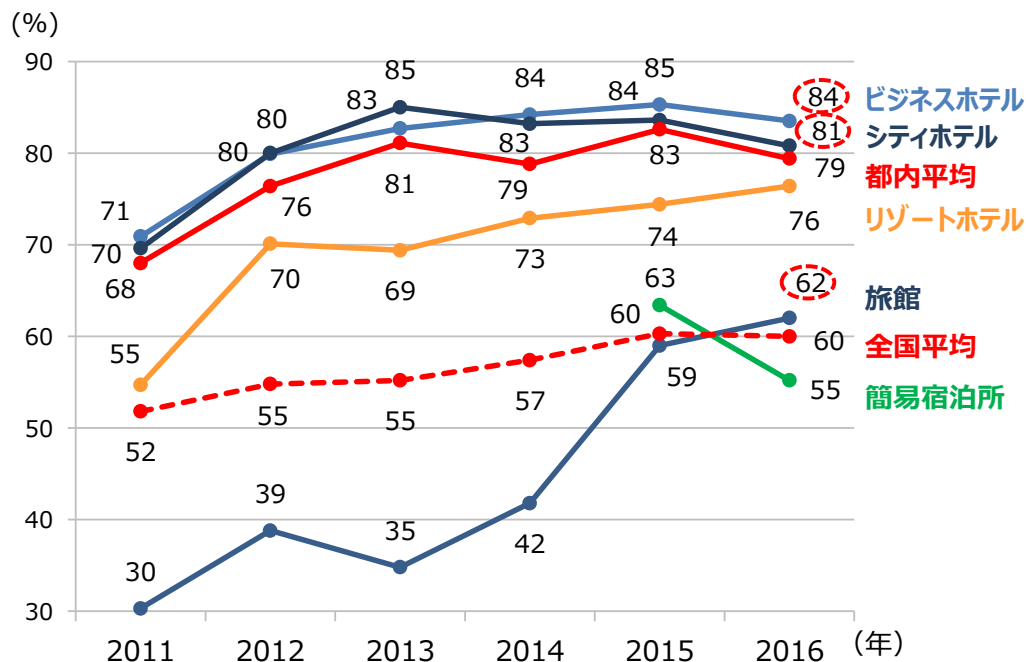
- 都内の延べ宿泊者数が**減少**となる一方、**外国人延べ宿泊者数**は前年比**2.8%増**の**約1,806万人泊**
- 都内ホテルの稼働率は**約8割**に達しているが、旅館の稼働率は**約6割**に留まる。

[都内宿泊施設の延べ宿泊者数推移]



注: 2016年は速報値。

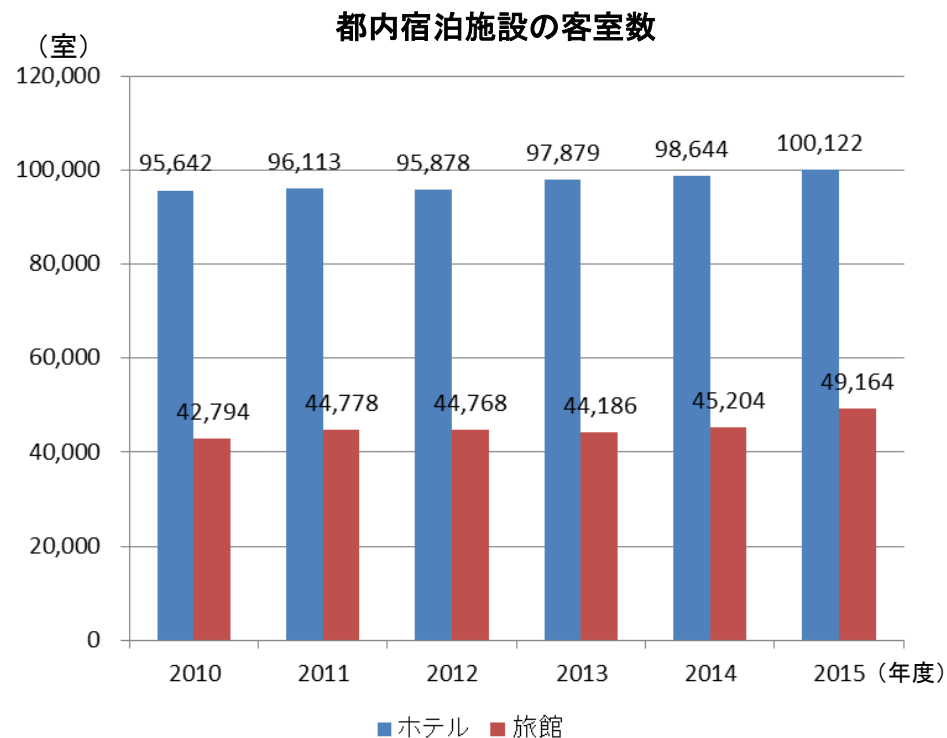
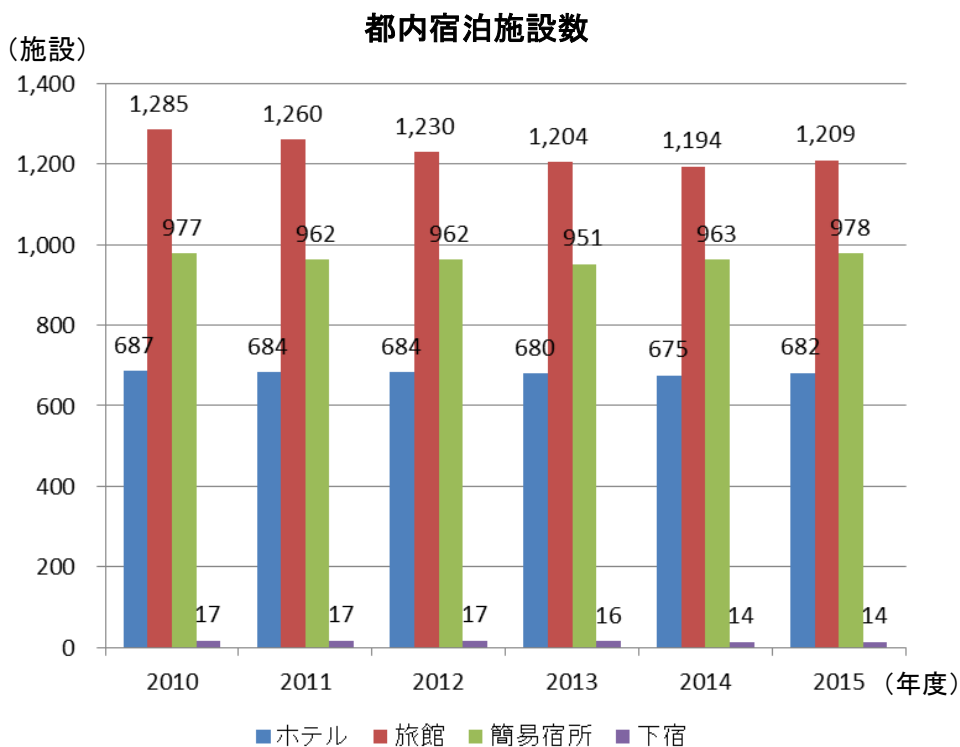
[都内宿泊施設の客室稼働率推移]



注: 2016年は速報値。

都内宿泊施設数・客室数の推移

- ホテル・旅館の施設数はやや減少傾向にあるが、2015年度はそれぞれ**682施設**・**1,209施設**と前年度に比べ微増となっている。
- 一方、客室数は増加傾向にあり、2010年度と2015年度を比べると、**ホテルは約4,500室**・**旅館は約6,400室増加**している。



出典:「衛生行政報告例(年度報)」(厚生労働省)

ビザ緩和の変遷

➤ アジア諸国等に対するビザ要件の緩和が進んでおり、訪日客の増加につながっている。

＜主なビザ緩和の事例＞

| 国 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | |
|--------|--------|----------|------|-------|----------|------|---------|------|------|------|------|------|------|------|--------|----------|------|------|--|
| 中国 | 団体 | 観光ビザ発給開始 | | | | ● | 発給地域全国化 | | | | | | ● | ● | 数次(沖縄) | 数次(東北三県) | | | |
| | 個人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 香港 | | | | | 免除 | | | | | | | | | | | | | | |
| 韓国 | | | | | 免除 | | | | | | | | | | | | | | |
| 台湾 | | | | | 免除 | | | | | | | | | | | | | | |
| タイ | | | | | | | | | | | | | 数次 | 免除 | | | | | |
| シンガポール | 免除済み | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マレーシア | | | | | | | | | | | | | 数次 | 免除 | | | | | |
| インドネシア | | | | | | | | | | | | | 数次 | 免除 | | | | | |
| フィリピン | | | | | | | | | | | | | 数次 | | | | | | |
| ベトナム | | | | | | | | | | | | | 数次 | | | | | | |
| ミャンマー | | | | | | | | | | | | | | 数次 | | | | | |
| カンボジア | タイ | 796,731人 | | 21.2% | 901,458人 | | 13.1% | | | | | | | | | | | | |
| | マレーシア | 305,447人 | | 22.4% | 394,262人 | | 29.1% | | | | | | | | | | | | |
| ラオス | インドネシア | 205,083人 | | 29.2% | 270,947人 | | 32.1% | | | | | | | | | | | | |
| | フィリピン | 268,361人 | | 45.7% | 347,860人 | | 29.6% | | | | | | | | | | | | |
| インド | ベトナム | 185,395人 | | 49.2% | 233,763人 | | 26.1% | | | | | | | | | | | | |
| | ブラジル | 103,084人 | | 17.2% | 123,007人 | | 19.3% | | | | | | | | | | | | |
| ロシア | | | | | | | | | | | | | | | | | | 数次 | |

ビザ免除・緩和された国の訪日外国人旅行者数の比較

| | 2015年 | | 2016年 | |
|--------|----------|-------|----------|-------|
| | 人数 | 対前年比 | 人数 | 対前年比 |
| タイ | 796,731人 | 21.2% | 901,458人 | 13.1% |
| マレーシア | 305,447人 | 22.4% | 394,262人 | 29.1% |
| インドネシア | 205,083人 | 29.2% | 270,947人 | 32.1% |
| フィリピン | 268,361人 | 45.7% | 347,860人 | 29.6% |
| ベトナム | 185,395人 | 49.2% | 233,763人 | 26.1% |
| インド | 103,084人 | 17.2% | 123,007人 | 19.3% |

※ミャンマー、カンボジア、ラオスのデータはなし

- 数次ビザ：有効期限が切れるまでは何度でも入国可能なビザ
- 一次ビザ：一回限り有効で、都度申請が必要なビザ

今後の動き

- ◆ 中央アジア5か国国民に対するビザ発給要件の緩和
 - 1 今般の「中央アジア+日本」対話・第6回外相会合の際に発表した、中央アジア5か国（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン）国民（一般旅券所持者）に対する短期滞在ビザの発給要件緩和措置に関し、2017年6月5日以降の申請分から運用を開始。
 - 2 運用を開始する具体的な措置の内容は以下のとおり。
 - (1) 従来発給している商用の方や文化人・知識人に対する短期滞在数次ビザの発給対象者の範囲を拡大することに加え、最長の有効期間を現行の3年から5年に延長。
 - (2) 自己支弁による渡航の場合、短期滞在ビザの身元保証書等の提出書類を省略。
 - 3 今回の緩和措置によって、商用や観光等の目的で訪日する中央アジア5か国の国民の利便性向上や訪日者の増加、ひいては日・中央アジア諸国間の人的交流の一層の活発化に資することが期待される。

空海港別の入国外国人数の推移

➤ 2015年の入国外国人数（約1,969万人）のうち、**成田空港、関西空港、羽田空港（入国者数上位3空港）の利用者（約1,361万人）**は、全体の**約7割**を占めている。

入管データのため
寄港者数とは異なる

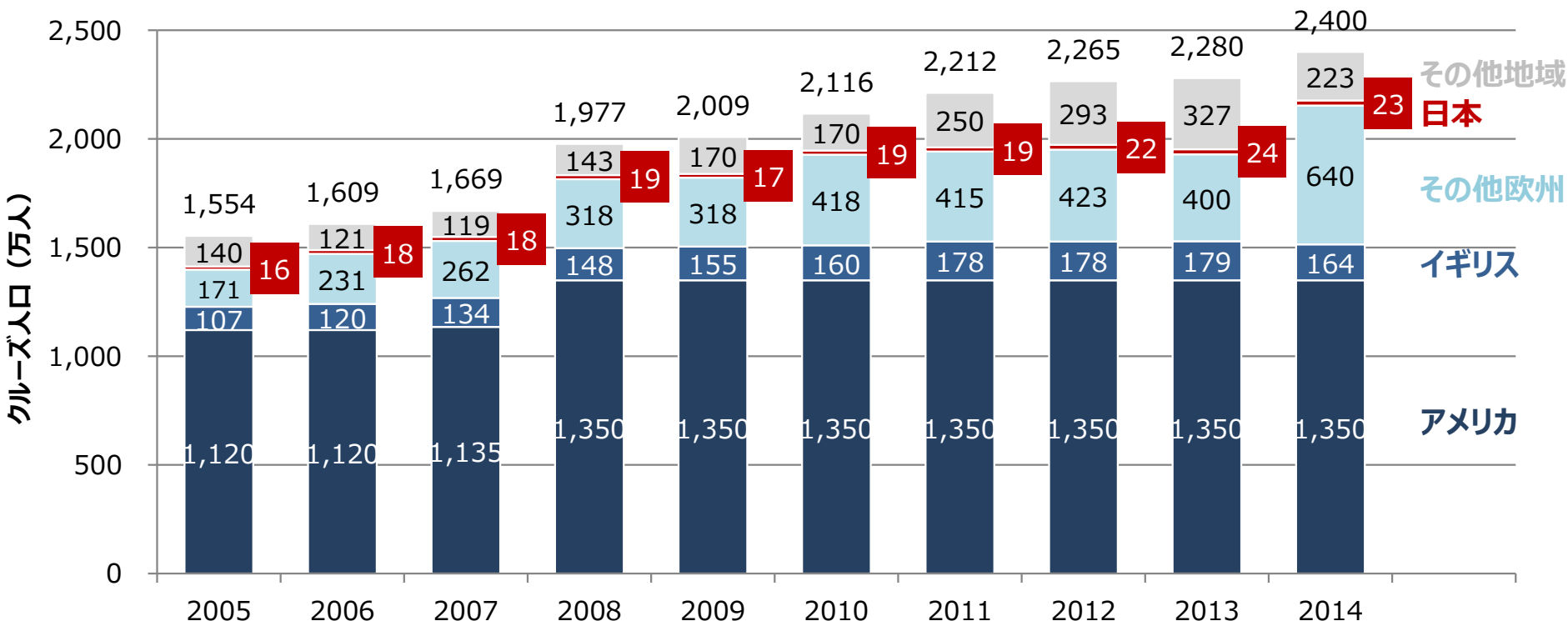
空海港別の入国外国人数の推移

| 年 | 新千歳空港 | 茨城空港 | 羽田空港 | 成田空港 | 中部空港 | 関西空港 | 福岡空港 | 那覇空港 | その他の空港 | その他の海港 | 計 | 東京港 |
|------|-------------|------------|---------------|---------------|--------------|---------------|--------------|--------------|--------------|-------------|---------|-----|
| 2006 | 26.7 (3.3%) | - | 34.4 (4.2%) | 401.6 (49.5%) | 51.6 (6.4%) | 147.1 (18.1%) | 38.7 (4.8%) | 6.5 (0.8%) | 54.2 (6.7%) | 50.1 (6.2%) | 810.8 | 548 |
| 2007 | 30.1 (3.3%) | - | 44.1 (4.8%) | 437.6 (47.8%) | 59.6 (6.5%) | 164.7 (18.0%) | 43.3 (4.7%) | 8.4 (0.9%) | 60.8 (6.6%) | 66.6 (7.3%) | 915.2 | 496 |
| 2008 | 31.1 (3.4%) | - | 53.3 (5.8%) | 428.3 (46.8%) | 59.6 (6.5%) | 164.1 (17.9%) | 42.6 (4.7%) | 10.6 (1.2%) | 55.0 (6.0%) | 69.8 (7.6%) | 914.5 | 720 |
| 2009 | 29.8 (3.9%) | - | 51.2 (6.8%) | 378.9 (50.0%) | 41.5 (5.5%) | 134.9 (17.8%) | 32.0 (4.2%) | 8.8 (1.2%) | 37.6 (5.0%) | 43.4 (5.7%) | 758.1 | 521 |
| 2010 | 36.3 (3.8%) | 2.5 (0.3%) | 75.1 (8.0%) | 419.6 (44.4%) | 50.7 (5.4%) | 174.5 (18.5%) | 48.4 (5.1%) | 14.0 (1.5%) | 53.0 (5.6%) | 70.2 (7.4%) | 944.3 | 563 |
| 2011 | 29.0 (4.1%) | 1.9 (0.3%) | 90.8 (12.7%) | 282.0 (39.5%) | 41.7 (5.8%) | 133.9 (18.8%) | 40.7 (5.7%) | 16.3 (2.3%) | 32.0 (4.5%) | 45.3 (6.3%) | 713.5 | 314 |
| 2012 | 39.0 (4.3%) | 2.8 (0.3%) | 109.8 (12.0%) | 356.2 (38.8%) | 47.6 (5.2%) | 179.2 (19.5%) | 56.1 (6.1%) | 23.1 (2.5%) | 43.0 (4.7%) | 60.4 (6.6%) | 917.2 | 933 |
| 2013 | 50.6 (4.5%) | 3.3 (0.3%) | 129.3 (11.5%) | 426.3 (37.9%) | 57.4 (5.1%) | 232.3 (20.6%) | 68.7 (6.1%) | 37.4 (3.3%) | 58.4 (5.2%) | 61.8 (5.5%) | 1,125.5 | 184 |
| 2014 | 66.2 (4.7%) | 4.0 (0.3%) | 175.2 (12.4%) | 493.2 (34.9%) | 69.9 (4.9%) | 317.0 (22.4%) | 88.4 (6.2%) | 65.3 (4.6%) | 71.9 (5.1%) | 63.9 (4.5%) | 1,415.0 | 374 |
| 2015 | 94.8 (4.8%) | 5.8 (0.3%) | 248.6 (12.6%) | 611.8 (31.1%) | 100.9 (5.1%) | 500.8 (25.4%) | 139.3 (7.1%) | 107.8 (5.5%) | 102.0 (5.2%) | 57.1 (2.9%) | 1,968.9 | 351 |

出典：出入国管理統計より作成

世界のクルーズ人口の推移

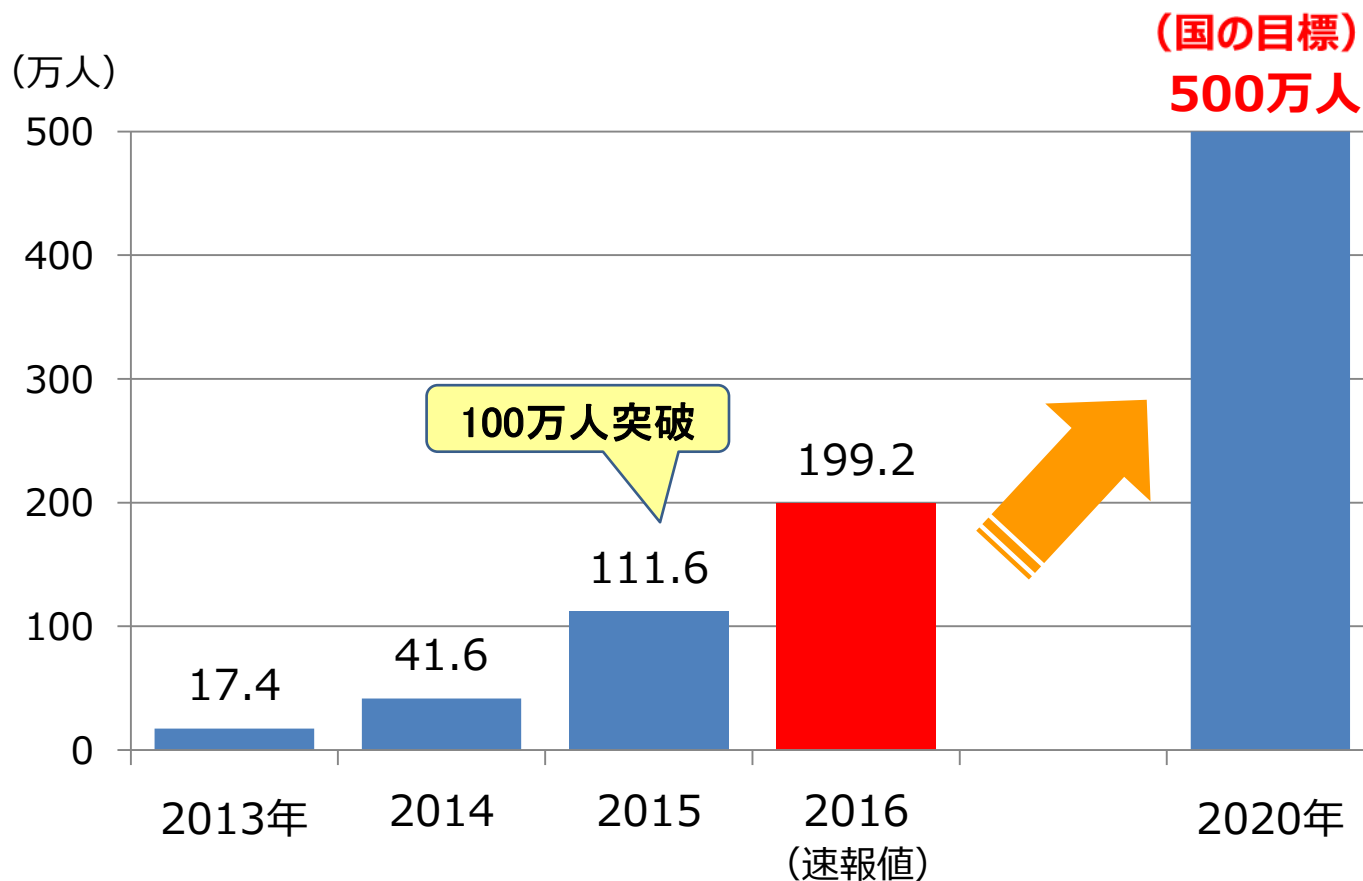
- 世界のクルーズ人口は増加傾向にあり、**アメリカやイギリスなどの欧米の割合が高い**
- 一方、**日本のクルーズ人口は約23万人**で、総人口に対する**クルーズ人口の比率も0.2%**と低い状況（アメリカ4.2%、イギリス2.5%）



| | 人口(万人) | クルーズ人口(万人) | クルーズ人口比率(%) |
|-----------|---------------|------------|-------------|
| 日本 | 12,713 | 23 | 0.2% |
| イギリス | 6,451 | 164 | 2.5% |
| アメリカ | 31,886 | 1,350 | 4.2% |

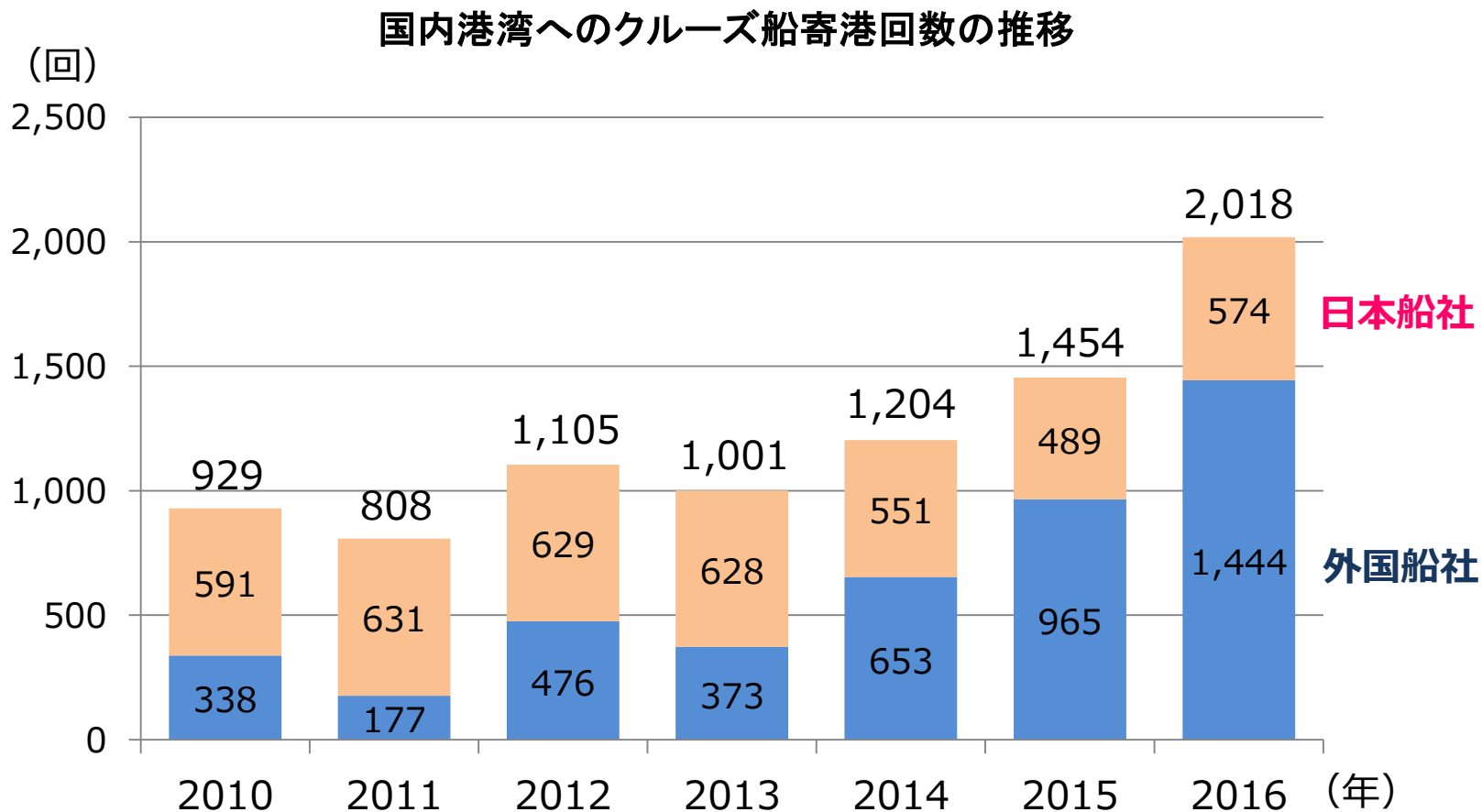
クルーズ船による外国人入国者数

- クルーズ船による外国人入国者数は2015年に**初めて100万人を突破**
- 2016年の入国者数は前年比78.5%増の**約199.2万人**となり、**過去最高**を記録



国内港湾へのクルーズ船寄港回数の推移

- 国内港湾へのクルーズ船寄港回数は2013年以降**増加傾向にあり、2016年は過去最高の2,018回**となった



※2016年は速報値

国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移(外国船社)

- 2016年のクルーズ船（外国船社）の国内港湾への寄港回数は、中国からのクルーズ船の寄港増加などから、**過去最高の1,444回**を記録
- 港湾別では、博多港312回、長崎港190回、那覇港183回の順に寄港回数が多い

外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数

| 順位 | 2010年 | | 2011年 | | 2012年 | | 2013年 | | 2014年 | | 2015年 | | 2016年 | |
|----|-------|-----|-------------|-----|-------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-------|
| | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 |
| 1 | 博多 | 61 | 石垣 | 42 | 博多 | 85 | 石垣 | 59 | 博多 | 99 | 博多 | 245 | 博多 | 312 |
| 2 | 那覇 | 46 | 那覇 | 37 | 長崎 | 72 | 那覇 | 41 | 長崎 | 70 | 長崎 | 128 | 長崎 | 190 |
| 3 | 鹿児島 | 45 | 博多 | 26 | 那覇 | 47 | 長崎 | 35 | 石垣 | 69 | 那覇 | 105 | 那覇 | 183 |
| 4 | 石垣 | 45 | 長崎 | 17 | 石垣 | 46 | 横浜 | 32 | 那覇 | 68 | 石垣 | 79 | 石垣 | 91 |
| 5 | 長崎 | 39 | 横浜 | 9 | 鹿児島 | 27 | 博多 | 19 | 横浜 | 48 | 鹿児島 | 51 | 平良 | 84 |
| 6 | 神戸 | 22 | 鹿児島 | 8 | 横浜 | 26 | 神戸 | 18 | 神戸 | 32 | 神戸 | 42 | 鹿児島 | 80 |
| 7 | 横浜 | 18 | 広島 | 6 | 別府 (大分県) | 25 | 広島 | 16 | 小樽 | 31 | 横浜 | 37 | 佐世保 | 62 |
| 8 | 広島 | 8 | 神戸 | 6 | 神戸 | 22 | 鹿児島 | 16 | 鹿児島 | 29 | 佐世保 | 34 | 横浜 | 41 |
| 9 | 大阪 | 6 | 大阪 | 5 | 大阪 | 22 | 大阪 | 12 | 函館 | 27 | 広島 | 25 | 広島 | 34 |
| 10 | 函館 | 4 | 別府 (大分県) | 4 | 広島 | 14 | 境 | 12 | 釧路 | 21 | 大阪 | 18 | 神戸 | 32 |
| | その他 | 44 | その他 | 17 | その他 | 90 | その他 | 113 | その他 | 159 | その他 | 201 | その他 | 335 |
| | 合計 | 338 | 合計 | 177 | 合計 | 476 | 合計 | 373 | 合計 | 653 | 合計 | 965 | 合計 | 1,444 |

※2016年は速報値

国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移(外国船社及び日本船社)

- 2016年のクルーズ船（外国船社及び日本船社）の国内港湾への寄港回数は、**過去最高の2,018回**を記録
- 港湾別では、博多港328回、長崎港197回、那覇港193回の順に寄港回数が多い

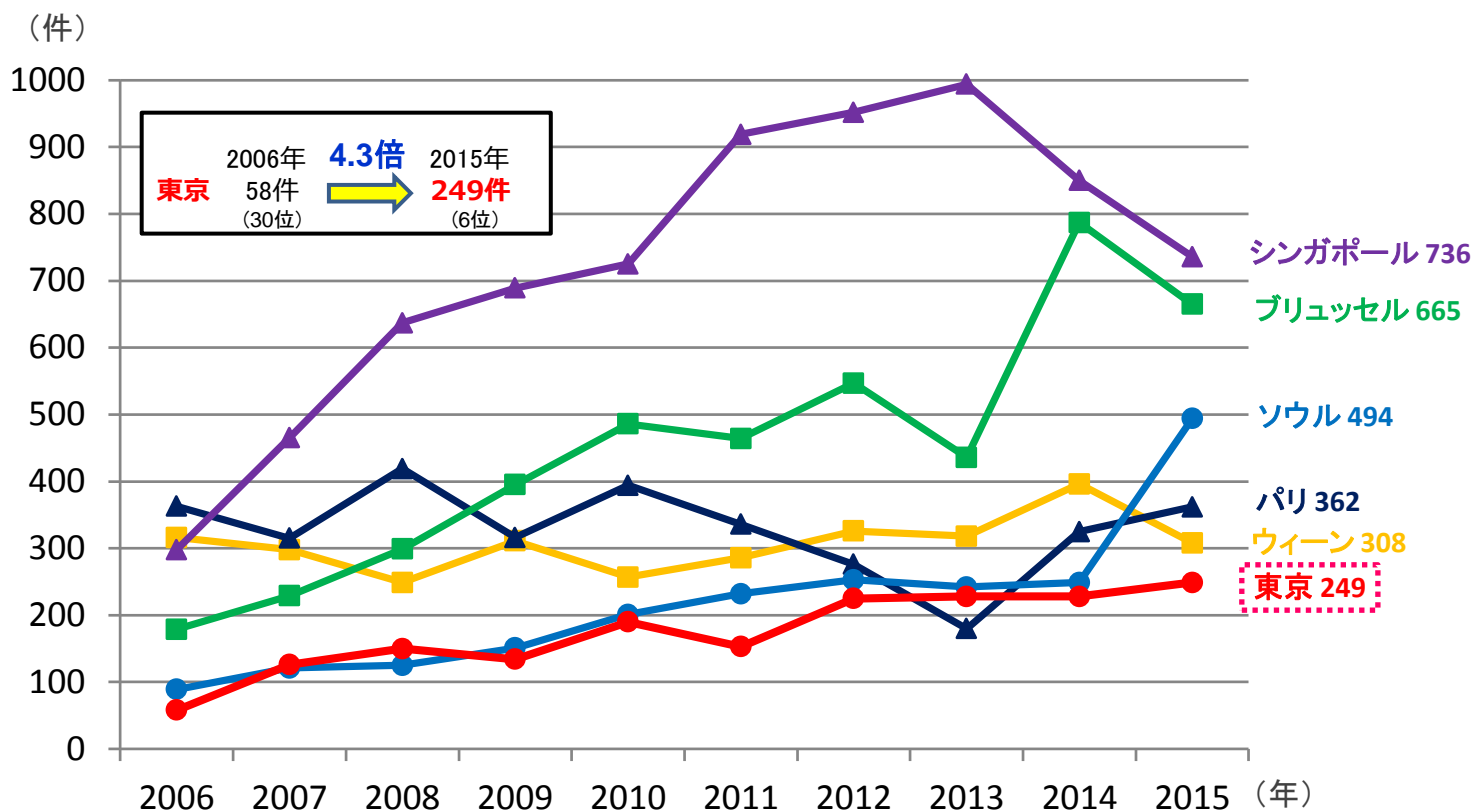
外国船社及び日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数

| 順位 | 2010年 | | 2011年 | | 2012年 | | 2013年 | | 2014年 | | 2015年 | | 2016年 | |
|----|--------------|-----|--------------|-----|-------------|-------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 | 港湾名 | 回数 |
| 1 | 横浜 | 122 | 横浜 | 119 | 横浜 | 142 | 横浜 | 152 | 横浜 | 146 | 博多 | 259 | 博多 | 328 |
| 2 | 神戸 | 103 | 神戸 | 107 | 博多 | 112 | 神戸 | 101 | 博多 | 115 | 長崎 | 131 | 長崎 | 197 |
| 3 | 博多 | 84 | 博多 | 55 | 神戸 | 110 | 石垣 | 65 | 神戸 | 100 | 横浜 | 125 | 那覇 | 193 |
| 4 | 長崎 | 54 | 那覇 | 53 | 長崎 | 73 | 那覇 | 56 | 那覇 | 80 | 那覇 | 115 | 横浜 | 128 |
| 5 | 鹿児島 | 52 | 石垣 | 49 | 那覇 | 67 | 東京 | 42 | 長崎 | 75 | 神戸 | 97 | 神戸 | 104 |
| 6 | 那覇 | 52 | 名古屋 | 28 | 石垣 | 52 | 長崎 | 39 | 石垣 | 73 | 石垣 | 84 | 石垣 | 95 |
| 7 | 石垣 | 47 | 宮之浦 (屋久島) | 23 | 名古屋 | 43 | 博多 | 38 | 小樽 | 41 | 鹿児島 | 53 | 平良 | 86 |
| 8 | 名古屋 | 27 | 長崎 | 21 | 鹿児島 | 34 | 名古屋 | 35 | 函館 | 36 | 佐世保 | 36 | 鹿児島 | 83 |
| 9 | 宮之浦 (屋久島) | 25 | 広島 | 19 | 別府 (大分県) | 34 | 二見 (父島) | 29 | 鹿児島 | 33 | 名古屋 | 34 | 佐世保 | 64 |
| 10 | 広島 | 22 | 鹿児島 | 18 | 大阪 | 33 | 広島 | 26 | 名古屋 | 30 | 広島 | 32 | 広島 | 47 |
| | 東京 | 22 | | | | | | | | | | | | |
| | その他 | 319 | その他 | 316 | その他 | 405 | その他 | 418 | その他 | 475 | その他 | 488 | その他 | 693 |
| | 合計 | 929 | 合計 | 808 | 合計 | 1,105 | 合計 | 1,001 | 合計 | 1,204 | 合計 | 1,454 | 合計 | 2,018 |

※2016年は速報値

世界各都市における国際会議の開催件数の推移

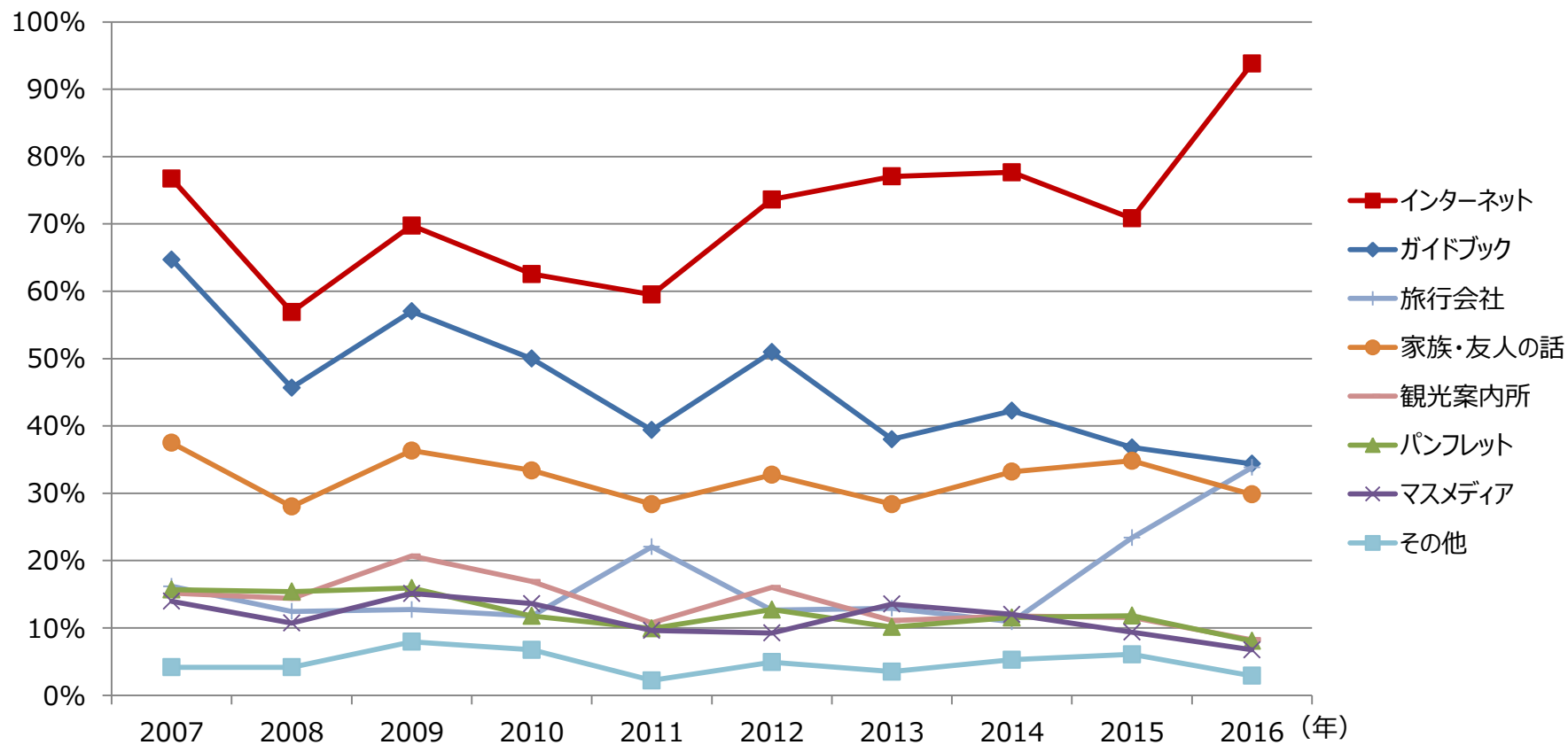
- 東京における国際会議の開催件数は、この10年間で約4.3倍と増加しているが、依然として競合都市であるシンガポールやソウル等に後れを取っている。



注 UIA(国際団体連合)* 統計基準による開催件数を掲載
 (*組織団体等に関わる情報の調査・収集・分析を行う非営利・非政府の団体で、「UIA国際会議統計」を年に一度発表している)

訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷

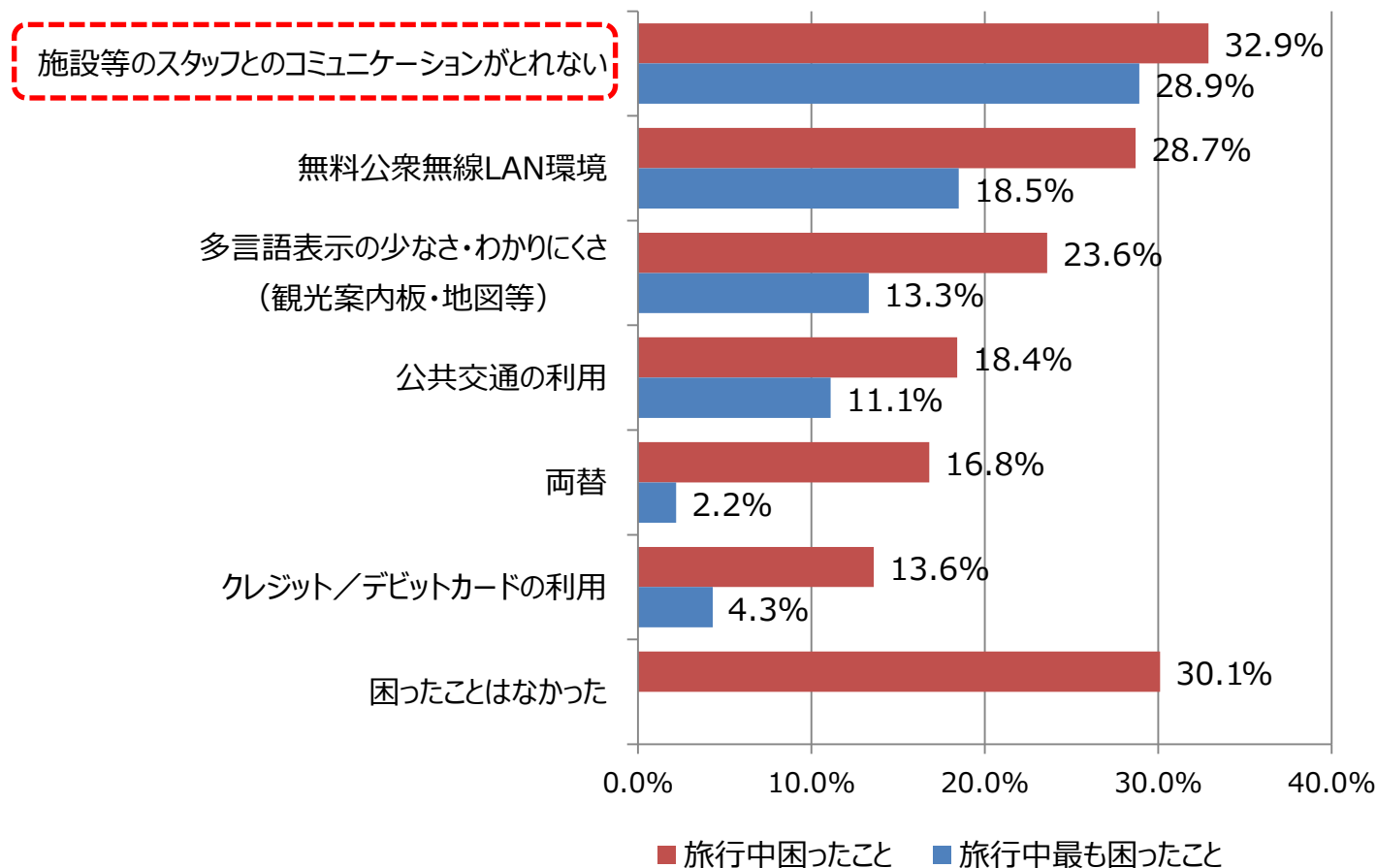
- 旅行者が観光情報を収集する主な手段は、ガイドブックなどの紙媒体から、リアルタイムで情報を容易に入手できるインターネットへと移行している。



出典:「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

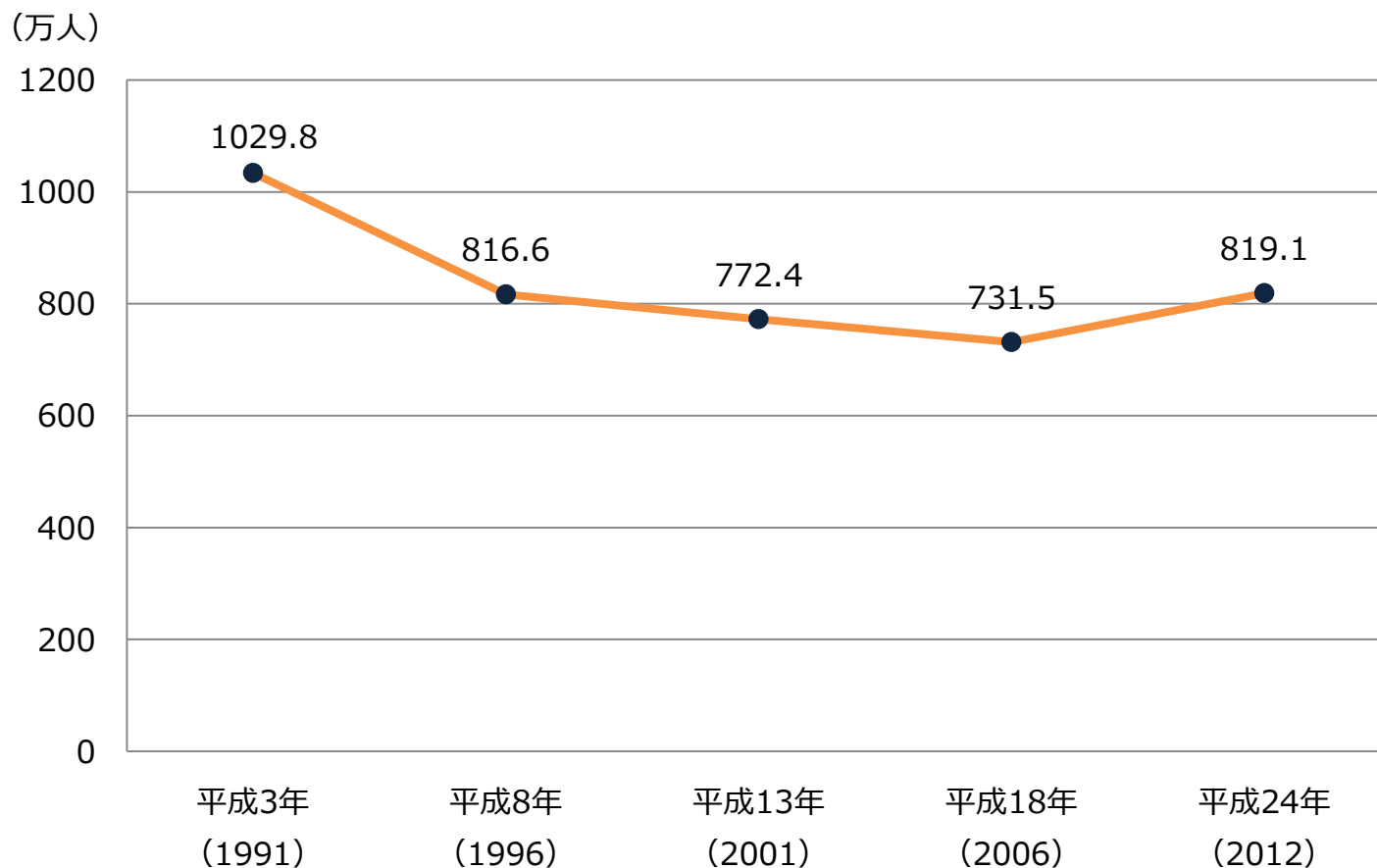
外国人旅行者が旅行中に困ったこと(2016年)

- 訪日旅行中に「最も困ったこと」、「困ったこと」の第一位はいずれも**施設等のスタッフとのコミュニケーション**となっている。



西多摩地域の入込観光客数の推移

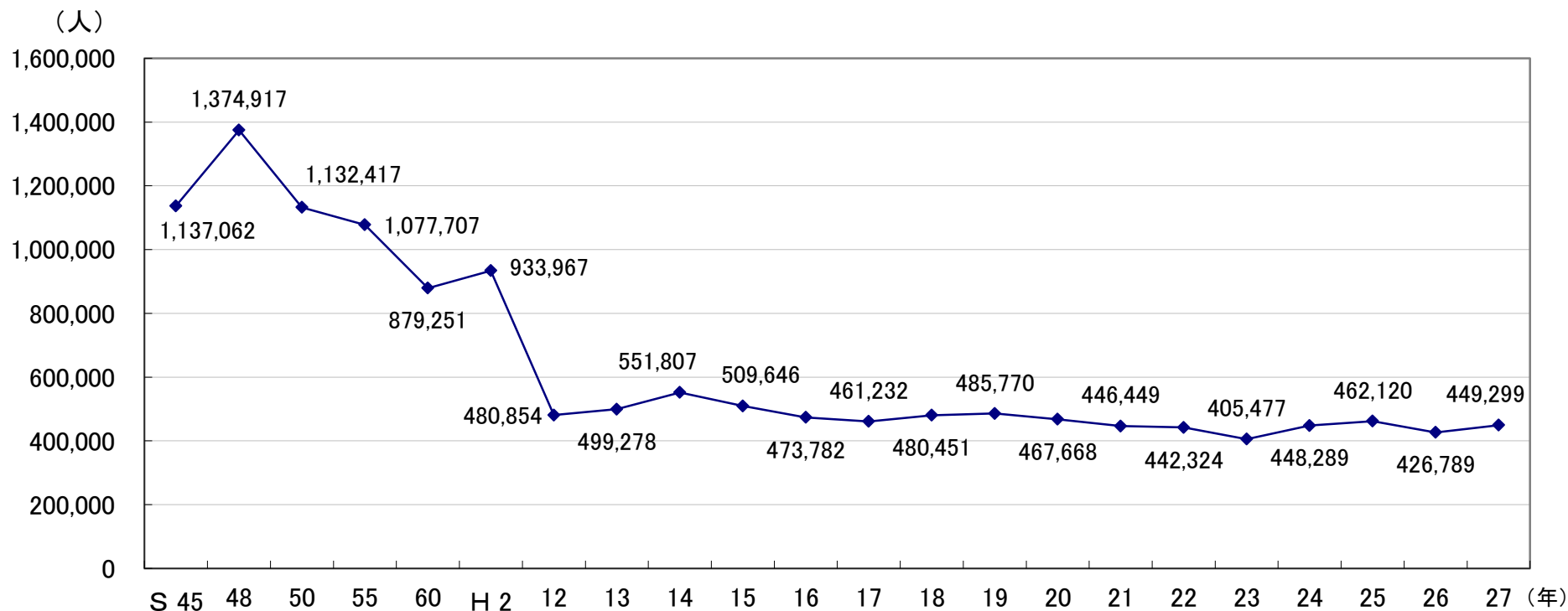
- 訪都旅行者全体の数が増加しているなか、西多摩地域への旅行者数はこの約10年間でわずか6%の増加に留まっている。



出典:「西多摩地域観光入込客調査報告書」(西多摩地域広域行政圏協議会)

伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移

- 島しょ地域への旅行者数は、昭和48年をピークに長期に渡り低迷しており、依然として**ピーク時の3割程度**の旅行者数に留まっている。



出典:「伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書」(東京都)

- 米国の富裕層向け旅行雑誌「Condé Nast Traveler (コンデ・ナスト・トラベラー)」の**世界で最も魅力的な都市ランキング**で、初めて**東京が第1位**(前年15位)に選ばれた。

【読者投票ランキング2016年「Best Cities in the World」 上位10都市】

| | | |
|-----|----------------------|-------|
| 1位 | 東京(日本) | ※15位 |
| 2位 | 京都(日本) | ※9位 |
| 3位 | フィレンツェ(イタリア) | ※1位 |
| 4位 | ルツェルン(スイス) | ※18位 |
| 5位 | サン・ミゲル・デ・アジェンデ(メキシコ) | ※ランク外 |
| 6位 | バンクーバー(カナダ) | ※19位 |
| 7位 | ビクトリア(カナダ) | ※24位 |
| 8位 | ザルツブルグ(オーストリア) | ※12位 |
| 9位 | バルセロナ(スペイン) | ※14位 |
| 10位 | ウィーン(オーストリア) | ※3位 |

注: 米国を除く世界各都市

※ 国名の後の数字は2015年の順位